北京周報

1

1963.7.5

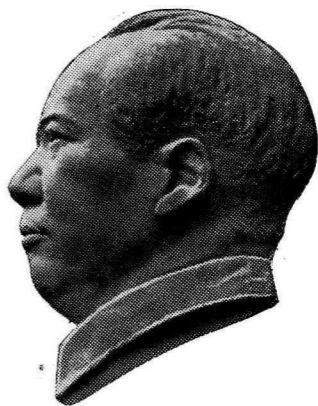
刘少奇主席のビルマ訪問

サブリ議長を北京で歓迎

ブルジョア国有化問題

タンガニーカの旅

詩・映画・美術工芸

試版

中国・世界ニュースの報道と評論の週刊誌

北京周報（日文版）
(BEIJING ZHOUBAO)
1963年　第1号

週間の動き

今週のニュース・トピックスは、中国とアジア・アフリカ諸国の政府指導者間における相互の友好訪問である。

●劉少奇中国国家主席のビルマ訪問：劉少奇主席は、四月二十日、インドネシア共和国を訪問、中国とインドネシアとの親善友好を深めたのち、空路ラングーンに赴き、ネ・ウイン将軍とビルマ人民から熱烈な歓迎をうけた。

中国国家主席のビルマ訪問期間中に、アリ・サブリ＝アラブ連合共和国閣僚会議議長は周恩来総理の招きにこたえて、中国を訪問するため北京に到着した。

同日、インドネシア共和国国務相兼陸軍総司令官アフマッド・セニ少将は、インドネシア軍事友好代表団を率い、夫人同伴で中国を訪問した。

●米帝国主義のラオス内政干渉：ラオスでは、アメリカ帝国主義の干渉により平和が危険にさらされ、情勢は悪化し、平和を愛好する人びとに不安をもたらしている。周恩来総理は、先週アメリカとラオスの反動派がラオスの愛国勢力の団結を分裂させ、ラオスでの国内戦争を再びひきおこそうとする陰謀を非難した。

●迫害された在印華僑の帰国：ニューデリ当局が在印華僑を逮捕収容したその収容所の中で平和と人道をふみにじっている。

華僑がマドラスから祖国に帰る船のなかで、この強制収容所での恐ろしい迫害の事実についてその真相を明らかにした。

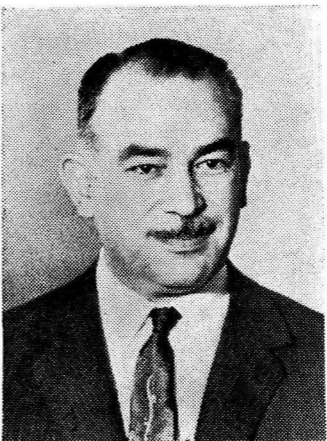
●「人民日報」が「アカハタ」の論文の要旨を掲載：四月二十三日付の「人民日報」は、日本共産党に反対する反党修正主義分子の中傷を論駁する日本共産党機関紙「アカハタ」の一論文の要旨を掲載した。

目次

時の焦点

サブリ議長を北京で歓迎

アリ・サブリ＝アラブ連合閣僚会議議長は周恩来総理の招きで中国を友好訪問、四月二十一日首都北京に到着、わきあがる熱烈な歓迎をうけた。その随員はつぎの通り。

外交部アジア局長兼全権公使 ハリファ・モスタファ氏
外交部調査局長 スタファ・モルタギ氏
閣僚会議議長事務室主任 ハーメット・マハムド氏
大統領新聞秘書 ホスニー・エル・ハディディ氏

アリ・サブリ議長

周恩来総理および中国駐在の外交使節たちはアラブ連合の貴賓たちを飛行場で迎え、飛行場には中国とアラブ連合両国の国旗や色とりどりの旗が飜っていた。アリ・サブリ議長一行が飛行機から降りたとき、数千にのぼる北京市民は中国色ゆたかな歓迎式典を挙行、ドラと大鼓の賑う音の中に「中国とアラブ連合の友好万歳！」、「アジアとアフリカ団結万歳！」、「世界平和万歳！」などの歓呼の声がたからかに響きわたった。

周恩来総理は、その歓迎式典でアリ・サブリ議長一行に熱烈な歓迎の辞をのべ、このたびの訪問は中国とアラブ連合との友好協力と両国人民の伝統的な友宜をいっそう深めるばかりでなく、また、アジア・アフリカ各国間の団結と世界平和を促進する助けにもなると挨拶した。周総理とアリ・サブリ議長が迎賓館に赴く途上には、数多くの人びとが街道の両側に立ちならび、三角の小旗と花束をふりながら国賓たちを迎えた。

アリ・サブリ議長は多忙なスケジュールの中にも、周総理およびその他の政府指導者たちと談話をかわした。宋慶齢中華人民共和国副主席もアリ・サブリ議長一行を迎え、かれらと親しく会談した。四月二十二日夜、貴賓たちは周総理と中国政府の他の指導者たちに伴なわれて文化部と中・ア友好協会共同主催のバレー「白鳥の湖」の特別公演を観賞した。周総理の設けた宴会および人民大会堂での群衆大会にも出席した。宴会の席上で周総理は中国政府と中国人民を代表して重ねて鄭重かつ熱烈にかれらを歓迎した。周総理は帝国主義と植民地主義にたいする闘争に光栄ある伝統をもつアラブ連合の人民にたいして賛辞を表し、またアラブ連合人民がスエズ運河の主権をまもり通した英雄的行為をも回想した。

周総理はさらにつづけて、近年らい、アラブ、アフリカの人民が民族独立のため、新旧植民地主義にたいするたたかいでめざましい勝利をおさめたとのべ、同時にまた中国人民は帝国主義に反対するアジア・アフリカ人民と固く団結して最後の勝利をおさめるまで最上の力をつくしてたたかうであろうと言明した。

中・印国境問題に関して、周総理は、中国は歴史的に残された四つの隣国との境界問題を円満に解決したとのべ、つぎのように語った。「中・印国境問題が、まだ未解決のままに残されている責任は全く中国側にはない。周知のように、中国政府は、中・印国境問題を平和的に解決しようとする立場を絶えず堅持しており、そのために出来る限りの忍耐と譲歩をし、最上の努力をつくしてきた。コロンボ会議以後、中国政府は積極的にその提案に応じ、さらに主動的にも一連の重要な措置をとり、中・印国境情勢を緩和し、中印直接談判のための条件をつくった。ところが残念なことには、印度側では相変わらず談判をさまたげるような先決条件を提出している。わたくしは皆さんにこういうことをいうことが出来る。たとえ、印度側がまだ談判の席上に戻ろうとする決意がなくても、もし印度側がさらに新しい軍事的挑発と武装侵入をしなければ、現存する停戦状態と相互の非接触状態は、引きつづき保持されるであろう。中国政府は国境情勢を悪化させ、直接談判に不利な如何なる行動をも絶対にとらない。われわれは、中・印国境紛争にたいする外国からのどんな干渉にも断固として反対する。なぜならば、どのような干渉であろうとも、これはアジア・アフリカの団結を破壊し、紛争の平和的解決を求める途上において、さらに障害を加えることになるからである。中国政府は中・印国境の平和的解決と中・印人民間における友宜にたいしては、確信をもっている。中国政府と中国人民のこの立場と確信は、決して変わることはないであろう」と。

周総理はまた中国とアラブ連合との伝統的な友宜について語り、アラブ連合政府は中国が国連での合法的権利を回復するようたえず支持したことにたいし感謝の意を表した。総理は最後

にサブリ議長の訪問は、必ず予想どおりの成果をおさめるであろうと、その確信を表明した。

アリ・サブリ議長はその談話の中で、アラブ連合国と中国との間の友好関係についてのべた。彼は、一九五六年、帝国主義とユダヤ復興主義者がエジプトに連合武装侵略をし、エジプトがこの不義な侵略勢力にたいしてたたかっているとき、中国人民と中国政府が送った道義的な支持と物質的を援助をアラブ連合は決して忘れないであろうと語った。アリ・サブリ議長は、アラブ連合は中国が大国として国連での正当な席位をもつべきであり、また中国が奪われた台湾およびその他の中国の島嶼における権力は回復されるべきであると、たえず主張してきたと、のべた。

中・印国境問題に関し、アリ・サブリ議長はコロンボ会議の目的は中国と印度双方を談判の席につかせ、平和的な方法でその紛争を解決するにあるとのべた。彼は中国政府のとった交戦の停止と武装軍隊の徹退という賢明な決定は、コロンボ会議に適切な雰囲気を作るのにもっとも重要な役割を果しており、六カ国の友好国家代表が確信と希望をもって、この問題を討論出来るようにしたと、言明した。サブリ議長はこのたびの中国にたいする友好訪問と中国の指導者との会見は必ずや期待どおりの結果を得ることができるであろうと確信を表明した。

四月二十三日、アリ・サブリ議長は、周総理と中国政府の指導者たちを招いたその宴会席上で、帝国主義はたとえどんな看板をかかげようとも、その本性と目標はなんらかわるものではない。アラブ連合はあらゆる物質的、道義的な力を用いて帝国主義とたたかい、その本性を必ず暴露させるであろうと語った。

周総理もその席上で、帝国主義と新旧植民地主義に反対する共同闘争は、アジア・アフリカ各国間の団結を強め、相互に支持しあうことは、アジア・アフリカ人民の共通の願いであり、最高の利益にも一致していると強調した。周恩来総理は、また中印問題を平和的に解決する中国の決意は、決してかわらないであろうと、重ねてのべた。

インドネシア軍事代表団 中国を友好訪問

インドネシア共和国国務相兼陸軍司令官アフマット・ヤニ少将は、インドネシア軍事友好代表団をひきい、夫人を同伴、去る四月二十一日、専用車で広東に到着した。

インドネシアの貴賓たちは、中国人民解放軍広州駐屯部隊司令官と広東省、広州市の政府指導者および当地の軍関係者三〇〇〇余名の熱烈な歓迎をうけた。

インドネシア代表団は、中国人民解放軍総参謀長羅瑞卿大将の招きにこたえて、中国を訪問したものである。

到着した当日のひる、インドネシア代表団の一行は、温玉成中将と夫人に伴われ、毛沢東主席が一九二〇年に創設した農民運動講習所の旧蹟と、中国輸出商品展覧会会場を参観した。

毛沢東主席が ブラジル共産党代表団に接見

毛沢東中国共産党中央委員会主席は、先週来訪したブラジル共産党代表団の団員たちに接見、晩餐をともにし、親しく談話をかわした。

代表団はブラジル共産党執行委員会委員マヌエル・ホベエル・テレース同志に率いられ、団員のうち一人はブラジル共産党中央委員会委員ハイメ・ミランダ同志で、一行は三月三十一日北京に到着、その滞在期間中に人民公社、工場、学校、その他の名勝旧蹟を参観した。

加共産党指導者 北京に無事到着

中国共産党はまた先週カナダからの二人の貴賓たちを迎えた。

一行は、カナダ共産党書記長レズリ・モリス同志および同全国執行委員会兼全書記ウィリャム・カシュタン同志であった。

四月十七日、一行が北京についたとき、彭真中国共産党中央政治局委員兼書記局書記、趙毅敏中国共産党中央委員会候補委員が、飛行場でかれらを出迎えた。

アルバニア新聞記者団 中国を友好訪問

いま、多くの外国新聞記者たちが中国を訪れている。

朝鮮「労働新聞」代表団が中国南部を旅行しているとき、アルバニアの新聞記者代表団は、アルバニア労働党中央委員会委員兼「人民の声」編集局長ママキ同志に率いられ、四月二十一日北京に到着した。

張際春中国共産党中央委員会委員兼中央宣伝部副部長は、アルバニア貴賓たちの到着当日、歓迎の宴会を催し、翌二十二日、「人民日報」編集スタッフは同社を訪れたアルバニアの新聞記者たちのために盛大な歓迎会を催した。

北京でバンドン会議八周年記念日を迎う

八年前の一九五五年四月十八日、アジア、アフリカ二九カ国からの代表たちは、インドネシアの美しい町バンドンに集り、経済と文化の協力、自決権、植民地主義反対、民族独立の勝利と擁護、世界平和およびその他の共同利益に関する諸事項について討議した。この歴史的な会議は、バンドン会議として全世界に知られ、アジア・アフリカ諸国がいかなる帝国主義国家の

干渉をも排除して、かれら自身の未来の方針をうち建てた最初の会議であり、その影響は深くかつ遠大であった。バンドン会議はアジア・アフリカ諸国間の友好的な協力をつよめ、これら諸民族の帝国主義と植民地主義にたいする共同闘争をこの上もなくもちあげた。

四月十八日、北京の有力紙はいずれも、この会議の八周年を記念して社説を発表、同日、北京では人民大衆の記念の集会を催した。周総理およびその他の政府指導者たちとかず多くの外交使節たちも、この一、五〇〇余人の集会に出席、会上で賀竜副総理は演説を行い、セイロン中国駐在大使A・B・ペレラ氏も北京駐在のアジア・アフリカ諸国の外交使節を代表して発言した。

賀竜副総理はその発言の中で、アジア、アフリカ人民の帝国主義と植民地主義に反対する共同闘争と、民族独立、世界平和をまもるためにかちとった偉大な業績をたたえ、このたたかいの有利な条件と、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国民が互いに支持しあい、援助しあう必要性についてのべた。

賀竜副総理は、植民地主義は決してみずから歴史の舞台から去るものでないと指摘し、アメリカ新植民地主義は旧植民地主義にとって変わりつつあり、政治的、軍事的、経済的および文化的手段や、転覆と滲透を通じてその植民地主義拡大の企らみをとげようとしている事実をあげて注意をうながした。賀竜副総理はアメリカ新植民地主義は大洲の人民にとってもっとも凶悪な敵であると強調して、つぎのようにのべた。「こんにち、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国民の直面するもっとも急迫した任務は、アメリカを先頭とする帝国主義と新旧植民地主義に対するたたかいである。」

賀竜副総理は、つづいてまた、中国政府と中国人民を代表して、中国はインドネシア政府が提出したアジア・アフリカ各国の第二次会議を召集する提案と、最近モシで開かれた第三次アジア・アフリカ人民連帯大会で採択されたハバナでの三大洲会議召集に関する決議案を全面的に支持する旨言明した。同副総理は、「この二つの会議の召集は、さらにバンドン精神を発揮させ、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国民の民族独立を擁護し、民主をかちとるたたかいを促進し、この三大洲の人民の団結を強めるうえに、さらにもっと大きい貢献をするであろう」と、のべた。

セイロン中国駐在大使ペレラ氏は、当日の会場でバンドン精神を称讃し、新植民地主義の危険性について注意をうながし、また、アジア・アフリカの新興諸国家の独立と主権を絶えず破壊し転覆する凶悪な手段を弄している帝国主義者と新旧植民地主義者をはげしく非難した。

ヒロンビーチ戦勝記念日を北京で熱烈に祝う

先週、北京でも、キューバ人民のヒロン・ビーチでのアメリカ雇い兵の侵入に対する戦勝二周年を記念する集会を催した。

キューバ中国駐在大使オスカア・ピノ・サントス同志は、この日を記念するため、招待会を開き、その祝辞の中でフィデル・カストロ同志の有名なことば「侵略者に抵抗することは平和のためにたたかうことであり、侵略者に降服することは戦争への道である」を引用し、ヒロン・ビーチの勝利は世界平和に対する偉大な貢献であると、のべた。

かれは、「この勝利は、もし全国の人民が団結し、ほんとうにたたかうつもりでいるならば、たとえ地球上にいかなる強力な敵があろうとも、それは人民がみずから選んだ歴史の方向を変えさせることはできないことを示している」と、語った。

陸定一副総理は、その招待会席上での発言で、ヒロン・ビーチ勝利の意義について、「この勝利は、キューバの革命と主権をまもりとおし、社会主義国家の尊厳をたもち、帝国主義に反対し、自由と解放のためにたたかう全世界の人びとに、もっとも輝かしい前例をうちたてた」と、語った。

陸副総理は「キューバの革命をまもることは、こんにちの世界人民の偉大かつ栄誉ある任務の一つであり、革命的な社会主義のキューバを封鎖し孤立させ、転倒することは絶対にできない。どんな軍事的力もキューバを征服することはできない。キューバはカリブ海上に輝しく立ちつづけるであろう」と、のべた。

陸副総理は、また中国人民とキューバ人民は、いまや帝国主義に反対するたたかいと社会主義を建設する事業で、つねに、互いに援助しあい、肩を並べて前進するであろうと言明した。

四月二十日、中国・キューバ友好協会、中国・ラテンアメリカ友好協会と中国科学院歴史研究所は、連合して戦勝二周年記念日を慶祝する大会を催し、オスカア・ピノ・サントス大使は、その会上でキューバの歴史について講演した。

上海では、四月二十三日、二〇〇〇人余の人が集り、この記念日を慶祝した。

中国平和擁護委員会と中国アジア・アフリカ連帯委員会および多くのその他の人民団体は、キューバに二周年記念を祝賀するメッセージをおくった。

中ソ貿易会談

中国貿易代表団とソヴエト政府とのモスクワでの一九六三年度中ソ貿易会談は成功裡に終った。中国代表団の主席は李強対外貿易部副部長、ソ連代表団の主席は対外貿易部部長N・S・パトリチェフ氏であった。

（12頁へつづく）

刘少奇主席のビルマ訪問

蘇　明

「パウポー」はビルマ語で、「同胞」ということを意味している。この言葉はながい年のあいだ、ビルマと中国の国と国のあいだに存在する友隣関係をいい現わすのに広く使われていた。このたびの劉少奇主席のビルマ訪問はこの「パウポー」友宜の最近のいい現われであった。この訪問を通じて中国とビルマの友好関係はよりいっそう強められるであろうし、また相いことなる社会制度をもつ民族のあいだの平和的共存の輝かしい先例ともなるであろう。

劉少奇主席と夫人は陳毅副総理と夫人を伴い、四月二十日ジャカルタから専用機でラングーンに赴き、そこでビルマ連邦共和国主席ネ・ウイン将軍と夫人、ビルマ高級官吏たちから熱烈な歓迎をうけた。盛大な歓迎式典がミンガラドン飛行場で挙行され、そこにはビルマと中国の国旗が祭日のように飾り立てられ、巨大なアーチには小さな美しいパゴダがちりばめ飾りつけられてあった。

ビルマに滞在しているあいだ、劉少奇主席はビルマ政府とビルマ人民から忘れ難いほどの心温まる歓待をうけた。主席のために催された国宴にはビルマ政府の高級官吏、高級将校およびラングーン首都の著名人士など約三百人が参加した。人民の感情を代表して、ビルマの各新聞はそのトップ記事につぎのような見出しをかかげて、「劉少奇主席と夫人を暖かく迎える」、「パウポーの感情をふかめる」、「中国とビルマの友好を強める」などと報道した。

忘れがたいでき事

古い友人たちが出会ったとき、人びとはよく長いあいだの友宜を細かく語りあいたいものである。中国とビルマ間の友好の歴史にもその一章ごとに忘れがたいものが記録されており、これらは劉少奇主席の訪問中に、重ねて語り綴られた。

ビルマは一番最初に中華人民共和国を正式承認した国の一つであり、両国の正式な外交関係は一九五〇年六月に樹立されている。周恩来総理が始めてビルマを訪問した一九五四年六月には、両国政府はその共同声明のなかであの有名な「平和共存五原則」を提案している。

ビルマはまた始めて中国と友好相互不可侵条約を締結した国でもある。この歴史的な文件は、一九六〇年一月ネ・ウィン将軍の北京訪問中に調印された。

ビルマはまた始めて人民中国と国境問題を解決した国でもあった。この両国は長さ二千キロメートル以上にもおよぶ共通の国境線をもち、復雑な国境問題は一世紀以上にもわたって存在していたが、この不幸な歴史的遺産は一九六〇年十月に結ばれた中国・ビルマ国境条約によって友好裡に解決されたのである。

過去十年間、中国とビルマ両国の指導者たちは、しばしば友好的な訪問をかわしあってきた。周恩来総理はかって五回ほどもビルマを訪問したし、宋慶齢全国人民代表大会常務委員会副主席、郭沫若同常務委員会副主席、陳毅、賀竜両副総理などをふくむ中国の指導者たちもそれぞれビルマを訪問している。これと同じくビルマ政府の歴代の首相もそれぞれ中国を訪問した。

中国とビルマは近年来三つの貿易協定を結んでいる。一九六一年周恩来総理のビルマ訪問のさい、両国政府は経済と技術協力協定および支拂い協定を結んだ。

昨年末ごろ、中国貿易代表団はビルマに赴き、ビルマ政府とのあいだにビルマ米買い付けに関する議定書に調印した。

政府間および民間使節団の交換訪問も日益しに増えつつある。それらの使節団には労働者、青年、婦人、スポーツマン、演劇劇団など多くの異なる社会層の人びとが含まれている。

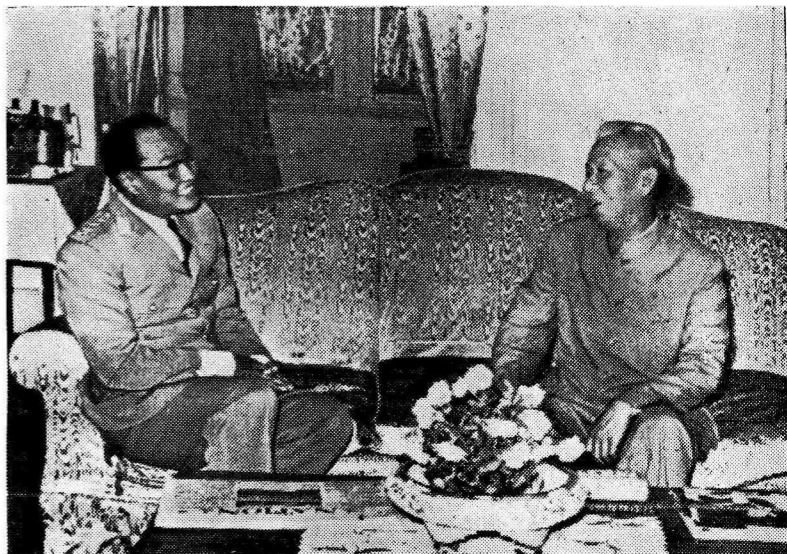
かがやかしい先例

この両国の日と共に増しつつある心からの友好関係は、劉少奇主席とネ・ウィン主席の国宴での談話のなかでもよく示されている。

ビルマと中国間の問題は首尾よく話し合いによって解決されたとネ・ウィン主席はつぎのように語っている。「いまのところ、われわれ両国のあいだには、解決を要するような難しい争いはない。われわれ両国のあいだに日益しに強められつつある友好と親善の結びつきは、こんにちもはや動かし得ない段階にまで至っている」と。

このビルマの指導者は、ビルマと中国は「友宜にたいする強い願望と相互理解

と相互援助の精神にみちびかれて」、「双方とも国境問題の満足な解決に成功した」と特に回想しながら語っている。

ネ・ウイン主席はまた両国間の経済協力の経過についても満足の意を示し、中国がビルマにあたえた三〇〇〇万ポンドの長期無利息借款について、ネ・ウイン将軍は財政援助と技術提供によって「われわれは国家発展のための経済計画の遂行を約束されている」と語った。

懇談中の劉少奇主席（右）とネ・ウイン＝ビルマ連邦革命委員会委員長（左）

劉少奇主席は中国とビルマの関係をたたえて、これはアジアとアフリカ諸国の「真摯な共存と友好的な協力のかがやかしい先例である」と語り、これらの関係の特点を説明してつぎのようにのべた。

「われわれ両国間の関係は全く平等である。われわれ両国はお互いに尊敬しあっている。われわれ両国は両国間のあらゆる問題を友好的な話しあいと相互理解と相互援助とを通じて解決する原則を固くまもっている。われわれ両国はいずれも相手方をギセイにして利益を得ようとか、または一方的な見解を相手方におしつけようと試みたことはなかった。平和共存の五原則は中緬両国にも適用される。われわれ両国間の関係については、両国が真に主権の相互尊重と領土保全、相互不可侵、内政相互不干渉および平等互恵の原則を実践にうつしている。」

共同の努力

中国とビルマは五原則とバンドン精神をまもり、相互の友宜をふかめたばかりでなく、あいともにアジア・アフリカ諸国との団結をもかちとった。

平和と中立の道を邁進するビルマは、アジア・アフリカ諸国の団結およびアジアと世界の平和を守るために多くの努力をつくしてきた。ビルマはバンドン会議の一発起国家として会議の成功に積極的に貢献した。ラオス問題についてのジュネーブ拡大会議では、ビルマは他の平和愛好国家とともに、ラオスの独立と中立は尊重されるべきであるとの立場を断固として堅持し、これはラオス問題の平和的解決に大きく役立った。中・印国境紛争を平和的解決するための中印直接談判を促進させるべくネ・ウイン主席は、みずからコロンボ会議にくわわり、会議が中国と印度が両国のどちらにも公平であるために多くの努力を払った。

これら過去のことを回想しながら、劉少奇主席は国宴の席上でビルマは国際的諸事件のなかで正義を堅持する精神を示したと語り、この精神は「ビルマ独立と主権の地位に一致するばかりでなく、また東南アジア地域の平和の利益とアジア・アフリカ人民の団結の利益にも一致するものである」と語った。

ビルマと同じく中国もアジア・アフリカの団結をきわめて重視しており、これについて劉少奇主席はとくに、中国がビルマ、ネパール、モンゴル人民共和国、パキスタンとの国境問題を平和的に解決した事実を指摘し、中国とアフガニスタンの国境談判も近いうちに開始されるだろうと語った。

固い基礎

中国とビルマの友宜がこのように深まってきたのは偶然でもない。中国人民とビルマ人民は同じく長年のあいだ、帝国主義者と植民地主義者によって苦しめられてきた。長年の闘争を経てのち独立を勝ちとったこの両国は相い共に自分たちの国家を建設する巨大な仕事に面とむかっている。両国の平和的な国際環境を保持しようとする熱烈な共通の願いは他国との友好的な善隣関係を維持し促進するということである。このような固い共通の基礎の上で、中国とビルマ両国政府はそれぞれ人民の希望にこたえてこの非常に成功した相互の親善友好関係をうち立ててきたのである。劉少奇主席の今回のビルマ訪問は、光りかがやいている中国・ビルマ間における民族間友好と団結により いっそう光りを添えることは疑いのないところであろう。

新聞日誌

中国元首のアジア各国訪問

インドネシア

バリ島で五万人が歓迎

四月十八日　バリ島では約五万の人民が集り、歌と踊りのはなやかな伝統的パレードで劉少奇主席と夫人を歓迎した。行進後、バリー島首府デンパザル市の広場では貴賓のために群衆大会が開かれた。

その日の午後劉少奇主席とスカルノ大統領はバリ島のイスタナタンムパサリングで会談を行った。

四月十九日　劉少奇主席と夫人はボーゴル、バンドン、ジョクジャカルタとバリ島での四日間の旅を終え、ジャカルタに戻った。

スバンドリオ夫人は劉少奇、陳毅両夫人のためにティーパーティーを開いた。

劉少奇主席と夫人はインドネシアの独立宮殿で別れの宴を開き、スカルノ大統領および他のインドネシア各界名士約四〇〇名が出席した。

宴に先だち、スカルノ大統領とインドネシア民間団体、政党らの代表者たちは劉少奇主席夫人にそれぞれ記念品を贈った。

四月二十日　劉少奇主席とスカルノ大統領は独立宮で共同声明に調印した。

劉少奇主席と夫人は飛行場で行われた送別式典に参加したのち、ジャカルタをあとにビルマに向った。スカルノ大統領、インドネシア高級官吏および数万のジャカルタ市民が劉少奇主席一行を見送った。

ビルマでも大歓迎

四月二十日　劉少奇主席と夫人、陳毅副総理と夫人および訪問団の他の随員たちはラングーンに到着した。ビルマ聯邦共和国革命委員会主席ネ・ウイン将軍と夫人をはじめ他の多くの政府高官たちは飛行場に中国の貴賓たちを温く迎えた。

四月二十一日　劉少奇主席と陳毅副総理は一九四七年帝国主義者の代理人らに暗殺されたビルマの民族英雄オン・サン将軍の墓に花環をささげた。

劉少奇主席と夫人はラングーンの世界的に有名なスウエダゴン塔を参観し、ここで数千のラングーン市民と巡礼者たちは中国国賓を迎えた。劉少奇主席は塔基金として六〇〇〇チャットを寄贈した。

劉少奇主席と夫人は、ネ・ウイン主席と夫人を儀礼訪問し、午餐をともにした。

ネ・ウイン主席は迎賓館に劉少奇主席を返礼訪問した。ネ・ウイン主席は劉少奇主席と夫人のために迎賓館の庭園で盛大な国宴を催し、宴会後双方とも音楽コンサートに出席した。

四月二十二日　劉少奇主席と夫人はネ・ウイン主席と夫人の付添いでラングーンから飛行機でシャン州の首都ダウンジに赴き、一万の大衆は、主要街道の両側に立ってかれら一行を迎えた。ここで主人と貴賓たちは有名なインレ湖を遊覧し、黄金アーチのある特別船に乗り、伝統的な船レースと、船上で行われた歌と踊りを参観した。約一万人のビルマ市民は十艘のボートに乗り、中国の貴賓と楽しみをともにした。人工の小島の上には、ビルマと中国の国旗と色とりどりの装飾旗がはためき、音楽は「団結こそは力」という中国の歌を奏でた。

四月二十三日　劉少奇主席と夫人はネ・ウイン主席夫妻に伴われ、専用機でビルマ西南海岸の休養地ヌガパリに赴いた。

中・インドネシア共同声明

中華人民共和国とインドネシア共和国は、劉少奇国家主席のインドネシア公式訪問に関し、つぎのような共同声明を発表した。

劉少奇中華人民共和国国家主席は、インドネシア共和国スカルノ大統領のまねきにこたえて、一九六三年四月十二日から四月二十日まで、インドネシア共和国を友好訪問した。劉少奇主席の随員は、劉少奇主席夫人、国務院副総理兼外交部長陳毅元帥および夫人、外交部副部長黄鎮、外交部部長助理喬冠華、国務院総理弁公室副主任羅青長、外交部第一アジア司司長章文晋、外交部新聞司司長龔澎、外交部礼宾司司長俞沛文、公安部局長岳欣、華僑事務委員会副司長朱毅、衛生部保健局副局長黄樹則、中華人民共和国主席衛士長李樹槐である。

劉少奇主席およびその随員は訪問期間中に、インドネシア共和国の国家指導者と人民の熱烈な歓迎と鄭重な接待を受けた。こうした歓迎と接待は両国人民の親密な友宜を反映するものである。

劉少奇主席とその随員は、インドネシア滞在中、ジャカルタ、ボゴール、バンドン、ジョクジャカルタおよびバリ島を訪問し、インドネシア各界名士と友好的な談話を交わし、インドネシア共和国がスカルノ大統領指導のもとに民族独立を擁護し、民族団結を強め、国家建設事業を発展させるなど、各方面において得られた勝利と成果を、高く評価した。

訪問期間中に、劉少奇主席とスカルノ大統領は、会談をおこなった。中国側の会談同席者は、国務院副総理兼外交部長陳毅、外交部副部長黄鎮、中国駐インドネシア大使姚仲明、インドネシア側の会談同席者は事務分配副首席閣僚レイメナ博士、副首席閣僚兼外交部長スバンドリオ博士、インドネシア駐中国大使スカルニ・カルトディウイリオである。

会談は親善友好と相互理解の雰囲気の中で行われた。

双方は両国間の友好協力関係をよりいっそう強め、あいともに関心を寄せている国際問題について十二分に意見を交換した。

双方とも、両国の友好協力関係が、バンドン会議の十原則と平和共存の五原則の基礎の上に立って、たえず発展していることに満足した。この二年らい、両国の友好条約の締結にともない、両国の友好関係はさらに新しい段階に入った。両国の帝国主義反対、新旧植民地主義反対のたたかいでの相互支持は、これにしたがって強められた。経済技術協力の方面では、両国が必要のあるとき、いずれも相手方にできる限りの援助をおこなうことに同意した。両国の文化交流もまた、顕著な発展があり、双方はいずれも、最上の努力をつくして一歩進んで両国の団結と友宜をかため、両国のあいだの経済技術協力と文化交流を拡大し強化することを表明した。双方とも、中国とインドネシア両国の友好協力関係が、たえず強められることは、両国人民の根本的利益に合致するばかりでなく、また、アジア・アフリカの団結を促進し、世界平和をまもる崇高な事業にたいしても、非常に重要な意義をもつものと認めた。

中国政府はインドネシア人民が西イリアンを回収し、国家統一の実現のためにおしすすめている正義の闘争を支持することを再確認するとともに、インドネシア人民がこのたたかいでかちとった重要な勝利を熱烈に祝した。インドネシア政府は、中国人民の台湾解放と、「二つの中国」の陰謀に反対するためにすすめている正義の闘争を支持することを重ねて確認し、かつ、中華人民共和国の国連での合法的権利の恢復を断固として主張する。

双方とも、中・印国境問題について、バンドン会議の十原則と、平和共存の五原則の基礎の上にたって平和的、合理的に解決し、またそうすべきであると一致確認した。双方とも、非加盟の六ヵ国のコロンボ会議で採択された提案が、この争いを平和的に解決するのに役立つ有利な雰囲気をつくったものと認める。双方とも、このような有利な雰囲気はもっと利用することができ、これを通じて中印両国が直接談判によって、この問題を解決するように希望する。双方は断固として、中印国境線の争いに対する外部からの干渉に反対する。なぜならば、このような干渉は、ただ、アジア・アフリカの団結を破壊するにすぎず、したがって、この争いの平和的な解決を求める途上において、障碍を増すだけにすぎないからである。中国政府はスカルノ大統領とインドネシア政府が、中国・インドの和解と直接談判促進のためになされた崇高な努力に感謝し、かつ重ねて中国政府の中印国境線問題を平和的に解決する立場の絶対不変であることを言明する。インドネシア政府は中国方面の主動的にとった停戦、中国辺境守備隊の撤退、印度軍捕虜兵の釈放などの一連の措置を称讃し、かつ、これらの措置が中印国境の紛争の平和的解決に非常に役立つと認める。

双方とも、目下の国際情勢は世界各国人民が帝国主義と植民地主義に反対し、世界平和をまもり人類の進歩を発展させる事業を促進する偉大な闘争にとって十分に有利であると指摘した。また、双方とも新興勢力はいま急速に増大しつつあり、かつ、国際関係の中で日一日と決定的な作用を起しつつあるとみとめ、帝国主義と植民地主義が世界平和をおびやかし、国際緊張をかもし出している根本原因であると一致確認した。世界平和を有効的にまもるために全世界の人民は、必らずより一そうかたく団結してこの二つの災厄を排除しなければならない。

世界平和を擁護するために互いに主権と領土の保全を尊重し、互いに侵犯せず、互いに内政干渉せず、平等互恵と、バンドン会議十原則の基礎の上にたって社会制度の異なる国家間の平和共存を実行する必要がある。

双方はひきつづき、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ各国人民が植民地支配から脱却するとともに、民族独立をまもるためにおしすすめられている新植民地主義と帝国主義に反対する闘争を支持することを重ねて認めた。この方面では、双方とも北カリマンタン人民が民族の自決権と独立をかちとり、またマラシアの名義で現われた新植民地主義のわなにかからぬようおし進められている英雄的な闘争と、全ベトナム人民がベトナムの平和的統一をかちとるための正義の闘争を断固支持し、かつ重ねてこの問題に関する如何なる外部からの干渉にも反対することを表明するとともに朝鮮人民の祖国統一をかちとる闘争も完全に支持することを表明した。双方ともアンゴラ、南モザンビーク、ポルトガル領ギニア、南北ローデシア、ニアサランド、ベチュアナランド、ケニア、ザンジバルおよび南アフリカ人民が植民地支配と圧迫に反対し、民族の独立と自由をかちとる正義のたたかいを断固支持するとともに英雄的なキューバ人民に同情を表明し、かつ、かれらが自分の理想と願望にもとづいて自分の国家を発展させ、これを妨げる一切の外部からの脅威と干渉を排除するために断固としてたたかう権利を擁護支持することを重ねて認めた。

双方は今後とも、バンドン精神を擁護発揚し、アジア・アフリカ国家間の友好団結を促進するため共同努力するであろうと表明した。中国政府は、インドネシア政府の第二回アジア・アフリカ会議の開催に関する提唱を全面的に支持し、且つ、この会議の開催がアジア・アフリカ各国人民の団結協力を強め、帝国主義に反対し、世界平和をまもる共同事業にたいして必らず積極的な貢献をなすであろうと認めた。

中国政府は国際オリンピック委員会が、無期限にインドネシアのオリンピック参加を停止した独断行為をきびしく非難する。中国政府は、スカルノ大統領の「新興勢力体育大会」を組織することに関する提唱を断固支持するとともに、かつ最善の努力をつくしてこの提唱の実現のために貢献したいと表明した。

双方とも両国の国家指導者の相互訪問は、両国間の団結と友宜を促進するに重要な意義があると認めた。劉少奇国家主席の訪問は両国間の友好協力関係をさらにいっそう強化する上において重要な貢献をなした。

一九六三年四月二十日ジャカルタにて

中華人民共和国国家主席
劉少奇

インドネシア共和国大統領
スカルノ

中・インドネシア両国 友宜で固く結ぶ

劉少奇主席のインドネシア訪問は劉少奇主席とスカルノ大統領が四月十日に独立宮で両国の共同声明に調印した事によって最高潮に達した。この声明には、今の世界の数多い重要問題に関する両国間の一致共通した理解と意見が書かれてある。共同声明の主な点は次の通りである。

双方ともあらゆる努力をつくし、両国の団結と友宜をさらにかため、発展させることを保証する。

中国政府はインドネシア人民が西イリアンの復帰と祖国統一のためにおしすすみている正義のたたかいに堅い支援をあたえることを再確認した。インドネシア政府は中国人民の台湾解放と「二つの中国」の陰謀に反対する正義のたたかいに全面的支援をあたえることを重ねて認めるとともに、中華人民共和国の国連での合法的権利の回復を強く主張した。

双方はコロンボ会議の提案が中印国境問題の平和的解決に有利な雰囲気をつくりだしたものと認め、両国はこの有利な雰囲気をいっそう発展させ、中印両国の直接談判による問題の解決に役立つことを希望した。同時にまた中印国境紛争への外国のいかなる干渉にも断固反対する旨を表明した。

双方は一致して帝国主義と植民地主義は世界平和の脅威であり国際緊張の根本原因であると認め、また世界平和を有効的にまもるため、全世界の人民はさらに緊密に団結し、この二つの敵を取り除くべきであり、両国はアジア、アフリカ、ラテンアメリカ人民のたたかいを引きつづき支持することを重ねて認めた。

中国政府はインドネシア政府の提案による第二回アジア・アフリカ会議の開催、ならびにスカルノ大統領の提案した新興国家による体育競技会の開催を全面的に支持することを表明した。

劉少奇主席は共同声明に調印したばかりでなく、事実上、このたびの訪問は中国とインドネシアが、帝国主義と植民地主義に反対し、アジアと世界平和を守るための共同事業での戦闘的友宜を具体的に表明したものである。

共同の闘争

中国とインドネシア両国は、反帝、反植民地のたたかいの重要性と緊迫性を十二分に知つている。劉少奇主席の訪問中、両国の首脳者はその演説の中でこの点をとくに強調した。

五万余人も集つたバリ島人民大衆の歓迎大会で、劉少奇主席はこの問題をもつとくわしくのべた。かれはアジア、アフリカ、ラテンアメリカ地域に住む全世界人民三十億のうちの約半数は、程度の差こそあれ、いずれも例外なくいまでも帝国主義者と植民地主義者の侵略、脅威、抑圧と搾取に悩まされていると指摘した。

帝国主義と新旧植民地主義に反対する闘争と民族の独立を獲得し、防御することは、依然として世界のその他の地域の人民と同じくアジア、アフリカ、ラテンアメリカ人民の直面する一番重要な課題である。植民地主義はすでに過去の遺物だという考えや、あるいは帝国主義、植民地主義にたいする闘争という課題はすでに第二義的意味しか持たないというような考え方は事実を無視したものであると語った。

政治的に独立しただけでは、まだ完全な独立とはいえないと劉少奇主席はつぎのようにのべた。「国家の完全独立は、あらゆる面で徹底した反帝、反植民地主義のたたかいを遂行し、人民の力に頼って、独立した国家経済をきずきあげてこそ得られるものである」と。

劉少奇主席はつづいてこう語つた。

「アジア、アフリカ、ラテンアメリカ人民のたたかいは世界平和運動の有力な一環を成している。帝国主義、新旧植民地主義とのたたかいが激しくなればなるほど、それとは反対に、世界平和がさらに身近かにやってくる。社会主義陣営の力と民族民主運動はいま世界に生れつつある新しい力である」と指摘した。帝国主義と新旧植民地主義は反動であり、腐りはじめている力である。最後に劉主席は毛沢東同志の有名な論断、「新生の革命的力には打ち勝てない」を引用してあいさつの結びにした。

一方では、スカルノ大統領はこの大会でつぎのように帝国主義と植民地主義の罪悪をあばいた。インドネシアと中国はあいともに世界の凶悪な勢力打倒のためにたたかっている。この帝国主義と植民地主義とのたたかいとともに、自然を征服するためにもたたかっている。このたたかいは、きわめて困難ではあるが、世界の進歩的勢力が緊密かつ永久的に団結しさえすれば、かならず達成することができる旨を明らかにした。

戦闘的友宜

両国の指導者は中国人民とインドネシア人民がその友宜のキズナ、すなわち「共同闘争」で堅く結ばれていると強調した。インドネシア人民はこのたび中国の首脳を心温かく熱烈に歓迎した。この事実は、インドネシア人民がどんなに中国人民との戦闘的団結と友宜を高く評価しているかを明らかにしている。

劉少奇主席の意義深いこのたびの訪問は、中国・インドネシアの友宜をさらにいっそう深めた。全世界人口の四分の一を占めるこのアジアの二大国家が団結と協力を強めたとき、疑いもなくアジアと世界の平和をまもる力をよりいっそう強めるであろう。

帝国主義者はいうまでもなく失望を感じている。このために劉少奇主席のインドネシア訪問中に、西方諸国のジャーナリズムは中国の外交政策を中傷する報道をまきちらした。

インド政府もまた、この友好訪問に攻撃を加え、悪意にみちた声明を出した。こうしたインドの行為はインド政府が完全につぎのような事実を無視していることを自ら暴露したのである。中国はインドネシアおよびその他の国家と同様に、すべてのアジアの国ぐに（インドを含む）と友好関係を発展したいし、また中印友好を促進するため中国はかって世界に知られたあの一連の重要措置をとったのである。

日増しに深まってゆく中国・インドネシアの友宜はあの有名なバンドン精神の具体的な表現である。バンドン精神のもとでアジア・アフリカ諸国民はこの団結をさらに強化した。そして帝国主義者とその追随者たちの悪意と謀略にもめげずかれらは必らずこの団結をまもりつづけるであろう。

時の焦点

（6頁より）

会談は友好的な雰囲気と相互理解のうちに行われ、両国代表団は、一九六三年度に交易される商品の数量について意見一致し、貿易議定書に調印した。

議定書によれば、一九六三年に、中国側はソ連にたいし、非鉄金属鉱石、錫、水銀、銑鉄、化学薬品、羊毛、羊毛繊維製品、絹とサテン、衣服類、編みもの製品、手工芸品、りんご、柑桔類およびその他の商品を輸出し、ソ連側は中国にたいし、鉄および非鉄金属、トラック、トラクターおよびその部分品、石油製品、木材、化学薬品、洗剤機械類、各種機械設備およびその他の商品を輸出する。

両国はまた、一九六〇年度の貿易取引での中国のソ連側にたいする負債分割償還の協定に関する一九六一年四月七日の議定書に調印した。中国政府の希望により、議定書では一九六二年度貿易取引の結果、中国側の支払超過額は、一九六一年の協定に規定された一九六五年に支払うべき債務の一部をまえもつて支払うことを規定した。

迫害された華僑 印度を離る

四月十三日、九〇〇余名の在印華僑は、中国政府の派遣した帰国船二艘に分乗してマドラスをたった。かれらは、印度政府に迫害されてきた在印華僑とその家族で、祖国に帰ることの出来た第一陣である。中国駐印大使館の館員たちはその出発に関する事務に立ちあい、また華僑を盛大に歓送した。

四月十三日の朝、帰国華僑が祖国の港につくと、船上のスピーカーは、中国の音楽と歌で彼らを迎えた。船内では、彼らの面倒を見に来た船員から心あたたまる歓迎をうけた。印度の強制収容所で非人道的な取扱いをうけたあとであっただけに、この接待をうけた多くの華僑は、感激の余り涙を流した。なかには船員たちにかれらが拷問を受けた証拠物件として血まみれの着物を見せた人もあった。多くの人びとは中国政府がかれらを迎えに派船したことをさえ港に来るまでは全く知らなかった。かれらはそれまでは印度の武装警官に護送され監視されていたと語っている。これら婦女子、子供、老人を含む華僑は囚人のようにマドラス港まで護送され、印度を離れるまで自分たちの財産を処理することすら印度当局から阻止されていた。かれらは自分たちの銀行予金を引き出すどころか、身につけていた銭さえ捜査強奪され、身まわりにもっていたわずかな荷物までも冷酷非道な捜査を強制された。病気をしていたある一老人のごときは、船に上ったとき、もう手にはわずか一本のステッキしかもっていなかったという着の身着のままの態であった。

帰国者の大多数は老人、婦女子、子供たちであり、その中には重病のため歩けない人もおり、かれらは中国の船員たちに担架で船上にはこばれた。帰国者のなかには妊婦が一人いたが、船上に運ばれるとすぐ、船内の医者や看護婦たちから心温まる手厚い看護と手当をうけた。彼女は印度強制収容所のなかでなんらの医療手当をもうけなかったといっていた。強制収容所からマドラス港に行く途中、彼女は陣痛を感じはじめたが、医薬治療の要求は印度当局から無視された。帰国華僑をのせた「光華」号汽船がマドラスを離れてから約十時間後、彼女は男の子を生んだ。

彼女はかくも親切に世話してくれた船員たちに感謝し、中国政府の親心と世話を記念するため「光華」と命名した。

ラオスの新公路 建設完成さる

中国、ラオス国境からホン・サリに至る長さ八〇キロメートルの公路が完成された。公路、橋梁、道路工事夫の家屋およびその他の設備は一九六二年一月両国間で調印された協定書にもとづき無償、無条件で中国から贈られたものである。

両国政府から任命されたラオスと中国の両国代表団は、公路の現場を検査、その公路は協定書に規定された規準にあい、見事に建設されたものと意見の一致をみた。公路の正式開通式典は後日決定される。

周総理がラオス情勢を語る

周恩来総理は、四月二十一日アリ・サブリ＝アラブ連合共和国閣僚会議議長を迎える宴会の席上で、アメリカ帝国主義とラオス反動派が、ラオスの愛国勢力の団結を離間挑発し、再びラオスを新しい内戦にひきずり込もうとするたくらみをはげしく非難した。

周総理はその席上で「さいきんラオスでアメリカが一連の政治的暗殺事件と武力衝突事件を指図し画策している。アメリカとラオスの反動派が、ラオスの愛国勢力の団結を離間挑発し、ラオス民族連合政府をクツガえし、再びラオスを新しい内戦にひきずりこみ、さいごにはラオスを手中に収めようとする野望があるのは日をみるより明らかである。これは一九六二年のジュネーブ協定に対する公然たる破壊行為であり、ラオスの独立、平和、中立に対する重大な脅威である」と語った。

周総理はまた、「われわれはジュネーブ会議両議長国とジュネーブ会議の全参加国が、アメリカのラオスに対する内政干渉と侵略活動をくいとめ、ラオスの危険な情勢を好転させる責任があると考えている」と語った。

周総理はさいごに、「わたくしは中国政府を代表して重ねて申しのべるが、中国政府はラオスの独立、平和、中立の政策を断固支持し、ラオスのいっさいの愛国勢力がよりいっそう団結をつよめ、ラオス反動派の挑発と破壊行為に反対し、アメリカ帝国主義の干渉と侵略政策に反対するたたかいを断固として支持し、一九六二年のジュネーブ協定をまもり抜くために努力を惜しむものではないと」語った。

ブルジョア国有化問題

有林

いま、マルクス・レーニン主義の基本的な革命原理は、ユーゴスラビアのチトー一味を代表とする現代修正主義者のため、これまでにないひどい歪曲と侮辱をうけている。プロレタリアートの革命とプロレタリアート独裁の学説はマルクス・レーニン主義の大切な理論上の砦であり、このため現代修正主義者のとくに気ちがいじみた攻撃をうけている。ユーゴスラビアのチトー一味を代表とする現代修正主義者は右翼社会民主主義者と同様、この基本原理を骨ねきにするにあたって、国家独占資本主義、とりわけブルジョア国有化の問題でおおげさに騒ぎ立てている。かれらは、国有化を中心とした一連のいわゆる「改革」を実施することこそ、プロレタリアートが独占資本に反対する新しい闘争の方式と方法であり、社会主義へ進むあらたな道であると極力吹聴している。ブルジョア国家の国家独占資本主義には多面的な内容（国家投資による企業の創設、民間企業の国有化、財政、金融など各種の方法による国民経済の統制など）がふくまれているが、国有化はそのうちの重要な一側面である。本文ではブルジョア国有化の現状、ブルジョア国有化の本質、ブルジョア国有化とプロレタリア社会主義革命の関係などの各側面からいちぶの資料と見方を提起するつもりである。

一

ブルジョア国家には、ずっと以前から「国有経済」があった。ブルジョア国家は、生まれおちるとすぐ、封建国家の経営していた独占企業を接収し、それまで原始的なマニュファクチュアの段階にあったこれらの企業を近代的な企業に改造した。ブルジョア国家はまた戦争や財政、経済上の必要から、企業の創設や買収の方法でしだいに国有経済を拡大した。しかし、第一次世界大戦までのところ、ブルジョア国有経済の範囲はきわめて限られており、おもに造兵廠、郵便、電報、鉄道などの企業と部門にすぎなかった。

第一次世界大戦のあと、資本主義世界がかって見ない重大な経済危機にみまわれたため、ブルジョア国有化は破産に瀕した大資本家を救済する措置としてかなりひろく実施されるようになった。たとえば、イタリア政府は一九二〇年から一九二一年の経済恐慌のさい、二五〇〇億リラ（一九五三年の価格に換算、以下おなじ）を投じて、すでに破産したイタリア割引銀行と、これにつながりのあるいくつかの工業会社を買いとった。ついで、一九二九年から一九三三年にかけての経済恐慌のさいには、また一万四四〇〇億リラちかい資金を投じて、イタリア金融資本の活動中心である三つの最大の市中銀行と、これにつながりのある多くの工業企業を買いとった。これらの銀行と企業は当時すでに破産のハメにおちいっていたのである。また、ドイツ政府は一九二九年から一九三三年にかけての経済恐慌のさい、破産に瀕した大銀行と大企業を挽回するためそれらの株券を大量に買いとった。ヒットラー政府のシャハト蔵相の供述によれば、一九三一年、ドイツ政府はおよそ七〇パーセントにのぼるドイツの銀行を支配し、またこれによって多くの株式会社を支配していた。第一次世界大戦のあと、ブルジョア国有化はかなりの発展をとげたとはいえ、総じて当時の国有化の規模はまだそれほど大きくはなかった。

第二次世界大戦ののちになると、ブルジョア国有化はさらに大きな発展をとげた。西ヨーロッパのいくつかの主要な資本主義国を見ると、これらの国の国有企業の比重はいずれもわりに大きいことがわかる。

戦後、イギリスはブルジョア国有化実施の面でトップを切った。一九四五年十二月にはイングランド銀行国有化法が通過し、そのご約三年間に五つの国有化法がつづけさまに通過した。一九五一年になると、イングランド銀行はじめ石炭、ガス、国内輸送などの各部門と一部の冶金企業にぞくぞくと国有化が実施された。国有化の措置をとった結果、以下の一部の部門と企業が国有になった。つまり、約一五〇〇の鉱坑と一部の石炭加工、煉瓦製造業、鉄道および鉄道車輌と鉄道部門に附属する旅館、内陸河船の通行する運河と港湾業務、大型自動車ステーション、ガス工場とガスパイプ、約五〇〇カ所の発電所と送電部門、国際有線電報と無線電報部門、航空ステーションと全民間航空機がそれである。このほか、いちぶの原子力工場と造兵廠も国有化された。いまのところ、イギリスの国営企業は全工業の約五分の一をしめており、これらの企業で働く労働者は労働者総数の約二〇パーセントをしめるものと見られている。

オーストリアは資本主義諸国のうち国

有化の規模がわりに大きい方である。ここでは一九四六年六月と一九四七年三月にあいついで二つの国有化法が通過し、大多数の炭鉱業ともっとも重要な冶金工場、有色金属工場、採鉱企業、炭鉱、発電所、アルミニューム製造企業、窒素肥料製造業、それにいちぶの機械製造企業が国有にきりかえられた。いまのところ、いく種類かの生産のなかで国有企業が占める比重はつぎのとおりである。鉄鋼生産と石炭採掘では九八パーセント、鋼材生産では九〇パーセント、有色金属生産では九四パーセント、石油の採掘と精製では九一パーセント、発電工業では四六パーセント、機械製造と鉄骨構造製造では三一パーセントである。国有企業の生産高は工業総生産高の約二八パーセントを占めている。金融面では、一九四八年にクレジット連合、クレジット機関と農業というオーストリアの三大銀行が国有化された。

フランスでは、一九四五年末と一九四六年にいちぶの経済部門といちぶ部門の重要企業が国有化された。石炭産業、発電と配電、ガスの生産と供給、バンク・ナシオナル・プール・ル・コメルス・エ・ランドストリなど四大銀行、おびただしい保険会社などが国有化された主なものである。フランスではいまのところ、国家独占資本の経営する企業と国家独占資本、民間独占資本の共同経営になる企業があわせて約六五〇、国営工業の全生産能力は工業の全生産能力の二〇パーセントを占めている。

イタリアは戦前から国有化の程度がわりに高かったが戦後はイタリア政府が工業復興会社、機械工業投資基金その他の機構をつうじて破産した企業の株券をつぎつぎに買いとった。一九四七年から一九五五年にいたる期間だけでも、この面で二〇〇〇余億リラも支出している。一九六二年の秋イタリア国会を通過した私営電力企業国有化法案は今年一月から施行されたが、これと同時に、国家電力会社という新らしい国家独占資本組織も創設された。統計によれば、イタリア最大の国家独占資本組織である工業復興会社傘下企業の生産高は、全国銑鉄生産高の七七・四パーセント、鋼鉄生産高の五五・五パーセント、鋼材生産高の五四・五パーセントをしめるほか、いちぶの電力生産をもにぎっている。国家炭化水素会社は全国メタン生産の九三パーセント、石油精製の三〇パーセントを支配している。国家電力会社はほとんどすべての電力生産を支配し、機械工業投資基金とコネ会社はそれぞれ機械製造と採鉱業のいちぶを支配している。概算統計によれば、目下のところイタリア国家独占資本と民間独占資本の共同経営になる国民経済のなかで占める比重は約三〇パーセントにおよんでいる。

西ドイツでは第二次世界大戦前から比較的多く国有化の措置がとられたが、いまも莫大な数にのぼる企業が全面的または部分的に国家に属している。国家は多くの特殊金融機構に介入し、多くの工業部門のなかでも重要な地位を占めている。たとえば、国家独占資本の経営する企業と、国家独占資本、民間独占資本の共同経営になる企業の生産高は、石炭産業では二六パーセント、コークス業では一八・五パーセント、鉄鉱の採掘では五一パーセント、アルミニューム製造業では七二パーセント、小型自動車製造業では四二パーセント、造船業では三〇パーセントを占めている。一九五八年、国有企業と国家資本の介入する企業の資本は四九億二七〇〇万マルクにのぼり、西ドイツの全株式資本の一八・三パーセントにおよんだ。

二

労働者階級の各種各様の叛徒たちは、戦後ブルジョア国有化の発展がわりにはやいのを利用して資本主義的帝国主義の制度を極力辯護している。右翼社会民主主義の指導者と「理論家」は、ブルジョア国有化を「社会主義経済建設のための最も重要な経済的、政治的な措置である」といい、資本主義の国有企業を「社会主義の要素」といい、国有化は「政治、経済面における資本の支配をまったくとりのぞき、」「人が人を搾取する現象を根こそぎなくした」といいくるめている。ユーゴスラビアの現代修正主義者はまた、ブルジョア国有化は、「非社会主義的方法で私有制を根絶し」資本主義的生産様式を否定するものであるといっている。

事態ははたしてそのとおりであろうか？　われわれはブルジョア国有化の対象、方式、結果を通して、ブルジョア国有化がどんな性質のものであるかを見てみることにしよう。

第二次世界大戦後のブルジョア国有化の対象からみれば、主としてつぎのようないくつかのばあいがある。

第一は、極端に立ちおくれているため、もはや多くの利潤をあげることができなくなったいちぶの部門である。たとえば、イギリスの工業部門のうちで、まっさきに国有化をおこなったのは石炭産業である。この部門は第一次世界大戦の直後はやくも没落期にはいったが国有化を実施するまえには基本的にまだひじょうにおくれた採掘方法をつづけ、設備も非常にふるくなっており、機械化はほとんどおこなわれていなかった。このような設備と技術条件のもとでは、労働生産率が自然に抵下する。一九四五年の労働者一人あたりの平均採掘高はわずかに二一六トンにすぎなかった。この数字は他の主要資本主義国家の数字より低いばかりでなく、さらに英国の一八七三年から一八八二年までの水準とくらべても、これよりはるかに低い。イギリスの鉄道部門の状況は石炭産業部門と似たりよったりである。一九四八年には使用期限をすぎた機関車が八〇〇〇輌をこえた（総数の四〇パーセントを占める）。一九四七年の統計によれば、総数約一二五万輌の

貨車のうち、修理中または修理を必要とするものはほぼ二〇万をかぞえ、車輛の数は年々減っている。イギリスの鉄鋼業の技術水準も立ちおくれていて、高炉の生産率はアメリカのほとんど四分の一にすぎず、一労働時間の製鋼量もアメリカのほぼ五分の一にひとしい。これらの部門は投資が大きいわりに利潤が少いため、ますます企業主を缺損と破産のハメにおいこんでいる。また、これら部門が立ちおくれていることは他の工業部門の発展や、他の独占資本家が多額利潤をあげるうえにいきおい影響をおよぼさざるをえない。このため、これらの立ちおくれた企業をもつ資本家たちははやくから、あまり大きな損失をうけない条件のもとでこれらのやっかいものをふりすててしまおうと考えていた。他方、国家としては独占資本ぜんたいの利益のためにもこれらの立ちおくれた企業を引取つて整備と改造をくわえる必要があった。国有化はもとの企業主を破産の危機から救いだしたばかりでなく、かれらに以前よりもたしかな収入を保証している。これは独占資本ぜんたいの発展と多額利潤獲得にとっても有利なのである。

　第二に、戦事のためにひどく破壊され、資本家にはもはや回復させる力のないいちぶの企業である。たとえば、オーストリアは終戦のさい、かってナチスの独占資本に強奪され、戦争で破壊された多くの企業をとりもどした。だが、戦争によっていためつけられた資本家たちはこれらの企業を所有する力がなかった。とくに、これらの企業に投資して、これを回復させ、そこから利潤をあげるだけの力がなかった。このような状態のもとでは、ブルジョア国家がこれらの企業を引取る必要がある。オーストリアのブルジョアジーがこれらの企業の国有化に同意した腹の底には、きわめて利己的な動機がひそんでいた。つまり、ブルジョア国家にこれらの企業の回復と設備の更新をやらせて、安あがりの商品と役務を手にいれようとしたのである。

　第三は、国有化ののち独占資本家に廉価な原料と動力を提供しうる部門と企業である。イタリアがことし実施した電力国有化はこの明らかな一例である。この国の電力供給はますます工業の需要に応じられなくなっており、とくに化学などの新興工業の今後いっそうの発展の必要に応じられなくなっていた。だが電力独占資本はより高い利潤を保証されるのでなければ、生産設備拡張のため大量の投資をしないし、また電力のたりない立ちおくれた地域に大量の電力を送ろうとしない。かくては、電力を使用する独占資本が廉価な動力を十分にえようとするこの要求とのあいだにどうしても矛盾が生じて来る。そこで、生産コストをさげて利潤をあげようとする独占ブルジョアジーの要求をみたすため、イタリアの支配グループは電力企業の国有化をおこなったのであった。以上のような目的から国有化を実施したのはイタリアの電力企業ばかりではない。いちぶの国ぐににおける銀行の国有化は主として独占ブルジョアジーがとくに有利な条件で借款をえるために実施されたものである。イギリスの電力国有化もこのような目的から出たものである。

　第四は、一部の軍事企業と、これに直接関係のある企業である。これらの企業の国有化が実施されたのは主として軍備拡張の必要によるのである。

　ブルジョア国有化はブルジョア国家が資本家の企業を高い値で買いあげることによって実現される。たとえばイタリアのばあい、一九二九年から一九三三年にかけての経済恐慌のさい、イタリア政府は株式相場が暴落しているにもかかわらず恐慌前の株式取引所のいわゆる「正常」価格という高値で商業銀行、イタリアクレジット銀行、ローマ銀行の全株券を買い上げた。イタリア政府はまた、一九六二年の秋に国会を通過した電力企業国有化法案でも、資本プラス利潤の原則によって一万五〇〇〇リラにのぼる補償金を電力資本家に支拂い、買あげ金の未払い部分にたいしては五・五パーセントの利子を支払うことをさだめている。戦後のオーストリア政府の法令では、全国有化企業にたいする補償金は元来の株式資本の三・六倍になっており、発電所にたいする補償金は元来の株式資本の六・五倍になっている。イギリスの鉄道会社は時価五億ポンドの株のかわりに政府から約十億ポンドの公債をうけとった。炭鉱業の旧経営主が手にいれた四億ポンドの補償金も国有になった炭鉱の価値のいく倍もこえている。トーマス・チリング会社ではさらに時価四四二万ポンドの株券のかわりにイギリス政府から二、四八〇万ポンドの補償金をうけとった。つまり、一ポンドの株券とひきかえに六ポンドの債券を手にいれたことになる。資本家が公債から得た高い利子はもとの株式配当金よりはるかに多い。たとえば、イギリス鉄道会社の株主は国有化前の数年間というもの自分の株券からほとんど得るところがなく、ただ例外的な年度に一・五パーセントを超えない配当金をうけるだけであったのが、国有化ののちになると、約五パーセントにおよぶ収入をうるようになった。国有化の実施はもとの経営主にとって、その実、ただ名儀をかきかえただけである。国有化ののちも企業利潤の大部分はかれらに渡されたのであり、企業利潤をぜんぶ手渡してもなお足りない企業さえすくなくなかった。たとえばイギリスの鉄道部門のばあい一九四七年から一九五八年にいたる年平均利潤は二、八〇〇余万ポンドであるが、年々旧株主に支払う利子は四、五〇〇万ポンドの多額にたっした。これらはすべてレーニンのつぎの科学的断定を充分に証明するものである。「資本主義社会における国家的独占は、あれこれの産業部門の破産に瀕している百万長者のために、収入をたかめたり確実にしたりする手段にすぎないからである」①。かって英国アトリー政府のシンウェル動力相は、英国の「採炭業はすでに病い膏肓に入っており、多くの人はよろこんで炭鉱から手を引こうとしている」とみとめざるをえなかった。かれはまた「政府はかならずいちぶの炭鉱所有者の財産を没収せねばならぬ、だが、これにこおどりしない資本家があるだろうか」とものべている。英国労働党の前党員ゲイッケルも、「社会主義と国有化」というパンフレットのなかで、イギリス政府が国有化実施のためおこなっている補償は独占資本家に非常に多くの利益をもたらしている、「ただ利潤とか配当金ではなく、利息の形態をとっているだけのことである」と白状している。

　ブルジョア国有化は企業を手ばなす個々の資本家にとって有利であるばかりでなく、独占資本家ぜんたいにとっても有利である。ブルジョア国家が企業を経営する最も根本的なねらいは独占資本家に多額の利潤を保証することにある。ブルジョア国家は独占資本家に有利な価格政策を実施して、すべての独占資本家が国営企業から廉価な原料、材料、動力をうけとり、それぞれの製品のコストを引き下げ、利潤を高めることができるようにする。たとえば、イギリスのばあい一九三八年から一九五七年にかけて製造工業の製品の卸売価格は二〇四パーセントもあがったが、電力の平均価格はわずかに三九パーセント、鉄道運賃もただ一一五パーセントしかあがらなかった。一九五二年、イギリスの炭鉱で採掘された石炭の一半は生産コストをわる価格で売り出された。フランスの石炭部門では国有化が実施されてから炭価はずっと生産コストを割っている。もちろん、こうした特別価格の利益は誰でもが受けられるものではなく、ただ独占資本の企業にのみあたえられる。フランスの電気料金の等級標準によれば、一九五一年電化企業と電力冶金業の支払う電気料金は一キロワットあたり一・八フランにすぎなかったが、一般市民の支払う電気料金は一キロワットあたり二六フランにたっした。また西ドイツ北ライン・ウエストファリヤ州国営発電所の電力は七〇パーセントが工業企業、三〇パーセントが一般市民にまわされているが、この三〇パーセントからあげる利潤の方が七〇パーセントのそれよりもいっそう多い。そればかりではなく、独占資本はまた国有企業から有利な発注をうけている。国有企業の発注は大多数が秘密のうちにおこなわれている。秘密発注は大独占資本家にとってとくに有利であり、この種の方法でかれらは公開入札のばあいよりはるかに多い利潤が得られる。イギリスのウイリアム・デーニーブラザー会社が請け負ったイギリス海峡横断船建造の発注は、その好例である。この横断船の建造費はたかだか一〇八万六〇〇〇ポンドていどであるが、イギリス運輸委員会はこれに一五〇万九〇〇〇ポンドも支払った。ブルジョア国家の国有企業は安い価格で独占資本家に商品を提供し、高い価格で独占資本家から商品を買い入れ、独占資本家に莫大な利益をあたえる。フランスの資料によればフランスの鉄鋼、化学などの工業部門の独占資本家は一九四七年から一九六〇年までの期間にこうした方式で三兆フランにものぼる利益をあげている。

　ブルジョア国家の国有企業が、事実上、大独占資本家に直接支配されていることは国有企業指導機構のメンバーの顔ぶれを見てもよくわかる。国有化のあと、もとの経営主はいちはやく国有企業の指導者となりすましているし、他の独占資本家もそれぞれの利益のためにひたすら国有企業の指導機構に自己の勢力を拡張しようとつとめている。その結果、国有企業営理局や会社の指導的地位につくものは独占資本家か、でなければかれらの代理人である。一九四九年、アトリーが議会での質疑応答のさい認めたところによると、当時、イギリスの各国有化中央管理局の委員一三一名のうち、半数ちかくはもとの民間企業の重役または社長で、その他の委員のうち三〇余名は貴族、地主、将軍であった。また、同年のイギリスの他の資料がもらすところによると、国家運輸会社の理事一三名のうち七名は民間会社の重役であったし、炭鉱業の管理にあたったものはすべて独占資本家の代表者であった。フランスでは、国有化を実施したのち、もとの経営者はあいかわらず企業の理事会にとどまり、ひきつづきこれらの企業をにぎった。とくに、銀行管理局で仕事をしているのはほとんどもとのメンバーである。オーストリアでも、国有化された銀行は事実上、大独占資本家の支配する金融機関である。かれらがこれらの銀行の重要な指導者であり、政策の決定者だからである。この国の国有企業の実権も大独占資本家の手ににぎられている。西ドイツでも、国有企業の指導メンバーは独占資本家とその代理人が圧倒的な優勢をしめている。イタリアになると、こうした傾向はなおさらつよい。この国の国有企業、は、鉄道、軍需工業、郵便、長距離電話など、ごくいちぶの企業が直接国家に管理されているほか、大部分は株式会社の形態をとっている。これらの企業にたいしては、国会も監督権がなく、政府も管理をおこなっていない。ことし一月九日のローマ「コリエール・デル・セラ」紙のつたえるところによれば、すでにイタリアの各党のあいだで話しあいがまとまった結果、新らしく設立された国家電力会社社長の椅子には、電力独占資本家で金融寡頭のひとりであるヂ・カーニョが坐ることになるという。国有企業の管理機構が大独占資本家に指導権をにぎられてしまえば、その企業はかれらの思いどおりに経営されることとなる。大衆をあざむくため、独占資本グループもしばしば国有企業の管理機構にいく人か「労働者代表」というものを置いているが、これはまったくの飾りものにすぎない。それというのも、第一に、決定権はつねに

独占資本家とその代理人の手にしっかり握られている、第二に、この「労働者代表」というものはすべて独占資本グループが養成し、ばってきした、かれらの忠実な道具である、第三に、もし「労働者代表」のだれかがすこしでもいうことをきかなければ独占資本家はいつでもそのクビをすげかえることができるからである。だから、飾りものをそえるといっても国有企業にたいする独占グループの支配にはすこしもさしさわりがないのである。

　ブルジョア国家が独占資本に奉仕するには、企業を買いあげるという形だけでなく、国有企業を払いさげるという形もとる。民間独占資本に払いさげられる企業は、国家の多額の投資によってもとの古くさいたちおくれから立直ったものが多い。多くの企業にとって、国有化を実施することは、その実、ブルジョア国家が国庫の資金（つまり人民が納めた税金）をつかって、資本家のかわりに固定資本を更新し、かれらのために投資の危険をひきうけてやることである。戦後、多くのブルジョア国家は国有化を実施するとともに国有企業を民間独占資本に払いさげる措置をとった。たとえば、イギリスは一九五二年から一九五三年にかけて黒色冶金工業といちぶ運輸業の国有化を廃止した。オーストリアでは一九五七年にクレジットアンシュタルト・バンクフェライン、ランデルバンクという二つの国有銀行の四〇パーセントの株券が払いさげられたが、そのうちのほとんどが独占資本家に買いとられた。西ドイツでは一九五四年から一九五五年にかけて国有企業が復活し、固定資本が大いに更新されたため、国有企業独占資本家の争奪の対象となり多くの国有企業と株券が「非国有化」された。イタリアでは不完全な統計によれば、工業復興会社が設立されてから一九五八年まで民間独占資本に払いさげられた国有株券は前後四九一〇億リラにたっした。

　国有化をおこなわずに、政府投資のかたちで国有企業を創設したアメリカでさえ、国有企業を独占資本家に払いさげる措置がとられている。アメリカ政府が戦時中に創設した企業の大部分は、戦後まもなく大独占資本の財産になってしまった。国有化とは、国家が民間企業を高い値で買いあげる一方、国有企業を安い値で民間独占資本家に売りもどすことである。たとえば、アメリカのユタ州ジエネバ市のある大工場は国費二億ドルをついやしてつくられたものだが、USスチール会社はそれを四八五〇万ドルで買いうけた。またリパブリック・スチール会社はシカゴ附近の冶金工場を三五〇〇万ドルで買いうけたが、国家がこの工場にかけたカネは九一〇〇万ドルにもたっしていた。イギリスでは、ことし一月中旬、政府が独占資本家に払いさげた三つの国営鉄鋼会社の資産総額は八五〇万ポンドにのぼったが、独占資本家がこれらの工場を買いうけるのに支払った額はわずか五七〇万ポンドだった。おなじころ、イギリス政府がもう一つの独占会社に払いさげた二つの国有製鉄所は実際の価値が二六〇万ポンドであつたにもかかわらず、売り値はわずか一五〇万ポンドにすぎなかった。これでもわかるように、国有化を実施するにしても、また国有企業を民間独占資本に売りもどすにしても、ともに独占資本家の利益のためである。

　ブルジョア国有化はいかなる方式をとるにしても、独占資本が国家を利用して勤労者を搾取する一種の手段であり、独占資本に莫大な利益をもたらすものである。ところが、広はんな勤労者にとっては、そのもたらすものはまったく逆の結果である。右翼社会民主主義者が資本主義的国有企業は「搾取をなくした」などと吹聴しているそのデタラメがいかにいつわりであり恥しらずであるか、第二次世界大戦後の事実はじつにはっきりとこれを立証している。国有化ののち、労働者の労働強度がぐっと高まった。たとえば、イギリスの石炭産業は技術設備がかわっていない条件のもとで、おもに労働者の労働強化にたよっており、一九五二年の労働者ひとりあたり年平均採炭量は一九四七年にくらべて一六パーセントもひきあげられた。国有企業の労働条件は極度に悪化し、労働傷害はふえる一方である。イギリスでは一九五五年炭鉱労働者の三分の一が負傷し、四二五名が死亡した。採炭工業のうち、年々登録された炭肺患者がのべ人員四〇〇〇人、この病気で死亡する者は年々七〇〇から八〇〇名まであった。国有企業の労働者の実質賃銀はあいかわらずひじょうに低い。一九四八年、イギリス労働党が政権をにぎっていた頃、労働党員フランシス・ウィリアムはイギリスの労働者にむかってあっさり言ってのけたものである。「国有化は労働者階級にとってかねて期待してきた一息つく時代が来たことを意味するものでは決してない。それはなんらの補償も要求せずもっと懸命に働けと労働者に呼びかけることを意味している」と。国有企業の労働者は資本家との闘争のさい、以前よりもっと不利な立場におかれる。資本家は「社会の利益」という口実でほしいままに労働者階級に攻撃をくわえ、もしも労働者が反抗すればただちに国家の行政官吏という肩書きで弾圧をくわえるのである。

　ブルジョア国有化は国有企業の労働者ばかりでなく、広はんな勤労者にも不利な結果をもたらした。国有化（国有企業を民間独占資本に売りもどすこともふくめて）を実施するにあたり、ブルジョア国家はあらゆる方式でブルジョアの財布をふくらませるが、このため広はんな勤労人民の貧困化はいっそうはげしくなる。それというのも、ブルジョア国家は旧経営主に補償金（統計によれば、イギリスのブルジョアジーが全国有企業部門からうけとった補償金は総額約二五億ポンドに達した）を支払うため大量の国債を発行するので、必然的にインフレーシ

ヨンを激化させ、このため貨幣価値はいっそう下落し、物価はいちだんと騰貴するのである。ブルジョア国家はまた国債利子（イギリスの石炭産業の旧所有主が一九四七年にうけとった利子は一五一二万ポンド、発電所の株主たちが一九四九年にうけとった利子は約一三〇〇万ポンドにたっした）を支払い、国有企業の欠損（独占資本家に廉価な商品と役務を提供することによって行われた）をおぎない、国有化した設備を更新するために政府の予算支出をふやすので、必然的に労働者の税負担をいっそう重くするのである。たとえばイギリスのばあい、一九三八年から一九五六年にかけて、労働者・職員の直接税と強制積立金は十倍ちかくにふえた。目下、各種税負担額は労働者の取入のほとんど二五パーセントを占めている。おなじ期間に、イギリスの小売り価格は二倍余りにはねあがった。税負担の増大と物価の暴騰によって労働者の実質賃金はいくらもあがらなかった。一九五七年、イタリアの勤労者の実質賃金は戦前のレベルの六〇パーセントそこそこであり、一九五八年のあともあまりあがっていない。いまフランスの勤労者が一九三八年当時の賃銀を手にいれるには一九三八年より二五パーセントも多く働かなければならない。

　ブルジョア国有化が広はんな勤労者に不利な結果をもたらすことについては、レーニンは早くも四十余年前つぎのようにはっきりと論証していた。レーニンはこう指摘している。「生産手段の私有が維持されている場合には、生産の独占化と国営化の強化をめざすこれらすべての方案は不可避的に勤労大衆にたいする搾取と、抑圧の強化、搾取者に対する反抗の困難の増大、反動と軍事的専制を伴い、これとともに、不可避的に住民中の他のすべての層を犠牲として大資本家の利潤を信じられないほどに増大させ、幾十億の公債利息の支払いという資本家への貢物によって幾十年ものあいだ勤労大衆を債務奴隷とする」②。現在の事実は、レーニンのこの断定の正しさをいっそう明確に立証している。

　国有化の性質は国家の性質によって左右される。ブルジョア国有化が独占資本家だけに有利で広はんな勤労者に不利であるのは、ブルジョア国家が独占資本に飼いならされた道具だからである。ユーゴスラビアの現代修正主義者がブルジョア国有化を美化しているのは、まず第一に、かれらがブルジョア国家の性質を歪曲しているからである。かれらはブルジョア国家を一種の超階級的なものだといい、「もはや資本主義社会におけるある階級の機構ではなく、この階級の特殊な利益を反映したり、よう護したりするものではない」といい、あるいは右翼社会民主主義者のいうように、すでに「全社会に奉任する」機構になったといっている。

　ユーゴスラビア現代修正主義者や右翼社会民主主義者はブルジョア国家を美化しているが、しかし、ブルジョア国家がゆらい「ブルジョアジーぜんたいの共同の事務を処理する委員会」であり③、ブルジョアジーの勤労者を抑圧し、搾取する機構であることは、現に人びとが目にしているところである。帝国主議の段階になると、独占資本は完全に国家を自已の支配下におく。かれらは政府機構のなかに自己の代理人をおくりこむばかりでなく、自分じしんが出馬して国家の要職につくようになる。これは第二次世界大戦いらい、主要な資本主義諸国に見られる普遍的傾向である。アメリカは「民主主義社会」の手本などといわれているが、ほかならぬこの国で支配機構はがっちりと独占資本に握られている。ケネデイ政府の主要なメンバーのうち、大ブルジョアが半分以上をも占め、その他のものもみなかれらの一族郎党である。イタリアでは、ファンファーニのいわゆる「中道左派」政府の閣僚（総理をも含む）二四名のうち一九名が大地主と大ブルジョアの利益を代表するキリスト教民主党員で、のこりの数人もみな事実上ブルジョアジーの利益を代表する党派から出ている。いうまでもなく、独占資本家がみずから出馬せず、基本的にはあいかわらずかれらの代理人に政権をにぎらせることもある。非常事態に直面すれば、さらに右翼社会民主主義者を出陣させて、矢面に立たせることさえある。だが、だからといってブルジョア独裁としての国家の性質が変ったわけでなく、かわりうるものでもない。一方では右翼社会民主主義者も同様に独占ブルジョアジーの下僕であるし、その他方では独占ブルジョジーが国家の経済動脈を握って、経済生活の至高の支配者である。そのため、かれらはブルジョア国家の根本政策を決定する力があり、権力がある。だれが政権の座にすわるにしてもかれらの意志の具体的な遂行者にほかならないからである。エンゲルスもかつて指摘したように、「近代国家は、どんな形態をとろうとも、本質的には資本主義的な一機構であり、資本家の国家であり、理念上の総資本家である。近代国家が生産諸力をその所有におさめればおさめるほど、それはますます現実的な総資本家となり、ますますひどく国民を搾取するようになる。労働者はあいかわらず労働者であり、プロレタリアである。資本関係は揚棄されない。むしろそれは極端にまでおしすすめられる」④のである。ブルジョア国家の機構も粉砕せず、国家権力の性質もあらためずに、ブルジョア国有化が労働者階級と広範な勤労者に有利であり、独占ブルジョアジーに不利であるなどとどうして想定できるだろうか。「社会平等」の目標に到達しうるなどとどうして想定できるだろうか。

三

　ブルジョア国有化の歴史的役割を正しく認識し、ブルジョア国有化と社会主義国有化のあいことなる性質を区別するこ

とは、ブルジョア国有化を分析する非常に重要な分野である。

ブルジョア国有経済のある程度の発展は現代資本主義社会の一種の客観的な趨勢である。その発展によって、生産の社会化は資本主義制度のもとで到達しうる最高の水準にたっした。これはとりもなおさず、社会主義のために物質的基礎を準備するものであって、プロレタリアートが政権を奪い取ったのち、生産手段の社会主義公有化を実施するのに有利である。ブルジョア国有化はまた、広はんな勤労人民の貧困を深め、階級矛盾をはげしくし、労働者階級の革命化をうながす。こうしたことは疑もなくプロレタリアートの社会主義革命にとって有利な条件である。

マルクス・レーニン主義者の目からみれば、ブルジョア国有化は社会主義のために物資的前提を準備し、客観的に社会主義革命を促進する役割をもっているにしても、これはやはり独占資本グループが自己の反動支配を維持するためにとった措置であり、独占ブルジョアジーが国家の名のもとに勤労大衆にたいする搾取と抑圧をくわえる手段である。ブルジョア国有化は独占資本を弱める（なほさら消滅とはいえない）のではなくて、その国民経済にたいする支配を強めるのにある。このため、マルクス・レーニン主義者はいつも革命の観点からブルジョア国有化問題をみている。プロレタリア革命とプロレタリア独裁がなくてはブルジョア国有化などによって資本主義から社会主義への「移行」を実現させることは絶対に不可能である。また、かかる国有化はただ資本主義のものであるにすぎず、社会主義国有化ではけっしてありえないというのがマルクス・レーニン主義者の見方である。レーニンは『党綱領の改正によせて』という一文のなかではっきりとこの問題を提起し、つぎのようにのべている。「革命の状況のもとでは、革命のさいには、国家独占資本主義は直接に社会主義に移行する。革命時には、社会主義にむかってすすまずには前進することはできない。……わが党の四月協議会が、「ソビエト共和国」（プロレタリアートの独裁の政治形態）のスローガンと、銀行やシンジケートの国有化のスローガン（社会主義への過渡方策のうちの基本的なもの）をかかげたのは、このことを考慮に入れたものである」⑤。

ユーゴスラビアのチトー一味を代表とする現代修正主義者は、マルクス・レーニン主義者の立場と正反対である。かれらはブルジョア国有化と社会主義国有化の根本的に異った性質を区別しないで、それらを混同している。また、ブルジョア国有化のもたらす有利な条件をつかんで社会主義革命をおしすすめるのではなく、ブルジョアジーの国家権力に抵触しないという条件のもとに、ブルジョア国有化とその他のいわゆる「改革」をつうじての社会主義への「平和的生長」をたくらんでいる。かれらは極力、ブルジョア国有化は一般的な改良の措置ではなく、「社会主義的要素」をもつ措置であり、「社会主義へ入る第一歩」であると宣伝している。かれらはまた、独占資本の支配を廃棄するため全生産部門の国有化をかちとるともいっている。その実、資本主義国家の国有企業は全く社会主義でないばかりでなく、全産業部門の国有化も幻想にすぎない。数多くの事実が明示しているように、独占資本家はかれらにとって非常に有利な条件のもとに、すでに高い利潤をむさぼることのできなくなった一部の部門を国家に高価で売りつけるだけであって順調に進んでいる圧倒的多数の企業は「国有化」することはぜったい許さない。とくにそれらの肝心かなめの部門をかれらはあくまで握ろうとしているブルジョア国有化はただ独占資本グループの国民経済支配に影響しないばかりでなく、かえって有利であるという条件のもとでのみ実施される。ユーゴスラビアのチトー一味を代表とする現代修正主義者はブルジョア国有化によって社会主義へ「移行する」いろいろな方案を想定したが、しかし、もっとも根本的な条件に欠けていた。ブルジョア国家機構を粉砕して、プロレタリア独裁を実施するというのがそれである。かれらにしてみれば、権力を奪いとるということはすでに重要な問題ではなくなった。かれらは、発達した資本主義国家のばあい権力をかちとることはもはや「社会主義の発展の第一段階ではなく」なったと公言している。

ブルジョア国有化の実質をかざりたててブルジョアジーのために犬馬の労をとることは、決してユーゴスラビアのチトー一味を代表とする現代修正主義の創造ではない。早くも四十余年まえ、旧修正主義者はそうしたものであった。第一次世界大戦の期間、とくに偉大な十月社会主義革命以後、資本主義の全般的危機がはじまった。当時、ヨーロッパの多くの国ぐにには革命の危機が発生した。大衆を社会主義革命の道からそらすために、これら国ぐにの右翼社会民主主義者は、極力ブルジョア国有化を宣伝した。ドイツやオーストリアの社会民主党は「社会化委員会」（ドイツではカール・カウツキー、オーストリアではオットー・バウエルを頭とする）なるものまでつくって、ブルジョアジーに手をかし、人民大衆をだました。だが、ブルジョアジーの支配的地位がいちじ安定すると、この「委員会」はなんらの成果もあげずにつぶれてしまった。一九二九年から一九三三年にかけてかつて見ない重大な経済恐慌が爆発し、全資本主義世界を席捲すると、右翼社会民主主義者がまたもや資本主義救済の処方箋としてブルジョア国有化の問題をもち出し、前よりやっきになってわめきたてた。だが、それが最高潮にたっしたのは何といっても第二次世界大戦以後のことである。これは戦後の資本主義の全般的危機が日ましに深まり、資本主義国有のいっさいの矛盾が極度に

尖鋭化したため、資本主義制度がすでに非常に不安定になったからである。このような状態で、独占資本グループは一方ではより多くの改良的措置（例えば、国有化、社会福利）を実施して階級闘争の情勢を緩和するとともに、他方では欺瞞的な宣伝に拍車をかけ、こんにちの資本主義はすでに過去とは違い、すでにいわゆる「人民資本主義」、「福祉国家」などになったと言っている。かれらはまたやつきになって労働者階級の中の代理人をそそのかし、いろいろな幻想を散布するのに拍車をかけ、労働者階級と広はんな勤労者の革命的な意志を弛緩させ、壊滅に瀕した資本主義制度の運命を挽回しようと企てている。ユーゴスラビアのチトー一味を代表とする現代修正主義者がブルジョア国有化問題についてわめき散らしているのは、独占ブルジョアジーのこのやうな要求にこたえたものにほかならない。かつて旧修正主義者が人民をだます手管を使ってもプロレタリア革命を食いとめ、取り消すというその犯罪的な目的をとげることはできず、逆に叛徒としての正体をすっかりさらけ出してしまったのである。こんにち被抑圧人民と被抑圧民族がいちだんと目ざめているとき、ユーゴスラビアのチトー一味を代表とする現代修正主義者の恥ずべき企てはかならず失敗におわるにちがいない。

① 『資本主義の最高の段階としての帝国主義』、『レーニン全集』二二巻、ロシア語版二〇六頁、日本語版二五〇頁、大月書店。

② 『ロシア社会民主労働党（ボ）第七回（四月）全国協議会』、『レーニン全集』二四巻、ロシア語版二七七頁、日本語版三一八頁、大月書店。

③ マルクス・エンゲルス『共産党宣言』より。

④ 『反デューリング論』、『マルクス・エンゲルス選集』一四巻、四七一頁、大月書店。

⑤ 『党綱領の改正によせて』、『レーニン全集』二六巻、ロシア語版一四三頁、日本語版一六六頁、大月書店。

タンガニーカの旅

陳　公　淇

わたしが、中華人民共和国文化友好代表団のひとりとしてタンガニーカ共和国を訪れたのは一九六二年十一月三十日から十二月十四日まで、ちょうどこの東アフリカの年若い共和国が独立一週年を迎えた前後のことである。ごく短い旅ではあったが、印象はとてもあざやかだった。つぎに、わたくしが見てきたことを、すこし書いてみたい。

ウハール

現地のスワシリ語でウハールといえば、「自由」を意味し、「独立」の意味にも通じる。タンガニーカでは、どこへ行つても、この呼び声を耳にした。だれもこの言葉に愛情をもち、これにかぎりない誇りを感じているのだ。一九六二年十二月九日、タンガニーカの独立宣言からまる一年目に、一陣の砲声に追い立てられるようにして、イギリス帝国の最後の総督は、この国を去っていった。見送りにきたイギリス人のなかには涙をながしているものが多く、広範な人民大衆が「ウハール」の歓声をあげているのとくらべて、いかにもあざやかな対照であった。泣くものは、帝国主義者の勝手きままにふるまえる時代が、もはややつて来ない過去のマボロシになつてしまったのを惜しんでいるのであろう。むかし、大英帝国はなやかなりし頃、ときのビクトリア女王は横暴にも当時ケニア領（イギリス植民地）に属していたアフリカの最高峰キリマンジャロを誕生祝のプレゼントとして甥のドイツ皇帝に贈ったといわれる。こんにち、植民地主義者は日暮れて道遠し、黙然と引きさがるほかはない。

いま歓声をあげているのは、重い苦難の道を歩んできたタンガニーカ人民である。かれらは長年のたたかいを経て、ついにアフリカの独立国家の陣列に加わつたのだ。（八世紀からこのかた、アラブ人、ペルシャ人、インド人らはいずれもかれらを圧迫したが、西方植民地主義者がアフリカに侵入してからは、かれらはつぎからつぎへとポルトガルやドイツやイギリスの残酷な植民地支配に苦しめられた。そのためにいったん独立が宣言されると、かれらが意気高らかに歓声をあげたのも無理でなかった。）

わたしたちが、モシへむかう途中、ビクトリヤ湖の南岸にある一小都市の飛行場で、当地の一青年に出合い、かれは、悲憤

タンガニ—カ音頭を踊るチャガ族の娘たち

慷慨しながらイギリス植民地主義者の罪悪をわたくしたちに訴えた。『一九五四年のことであった。イギリス植民地主義者は、人民のますます強まってくる反抗に直面して、後退せざるを得なかった。それまでは、飛行場とか高級ホテルとかレストランなどは原住民たちは入ることさえ出来なかった。いま、わたくしたちはすでに独立をかちとったとはいっても、経済の面ではイギリス人がまだ大きな支配力をもっているから、もっと何か別の方法を講じなければ、この問題は解決できないと話してくれた』と。だが、かれはハッキリいえば、新らしい植民地主義者の侵入についてはまだ正しい認識に欠けている。かれは、『わが国はいま、切実に幹部を必要とし、技術を必要としている。アメリカの「平和部隊」はタンガニーカにやってきて、教師として幹部訓練に助力しているので、イギリス植民地主義者よりはましである』と、いっている。アメリカ帝国主義者はアフリカの新独立国家が直面している困難にツケこんで、侵入しようとやっきになっており、いろいろと手練手管をつかって大衆の耳目をおおいかくそうとしている。だが、「羊の皮を着た狼」は、容易にバケの皮をはぐものである。ちょうど、わたくしたちの訪問中に、アメリカ上院議員E・リンダーは恥知らずにも『アフリカでは、かなりおおくの国が独立したが、早きに失する』、『白人の助力がなければ、アフリカ人は自国を指導することが出来ない』と、のべた。これはアフリカの独立諸国家に当然のことながら、大衆的な憤怒をまきおこした。タンガニーカ政府は、そのアメリカ人の入境を許可しなかった。そのご、この帝国主義の「旦那」が国境にきたとき、飛行機の中に身をひそめたきり降りる勇気もなく、燃えつくような太陽に照されながらこっそりと去つて行った。このヤンキーはアフリカのその他の独立国家でも同じ憂目に出遭ったのである。

タンガニーカ人民がウハールを叫び、新、旧植民地主義に反対するたたかいにあたって、なおいくたの仕事をやらねばならないのは明らかである。そのためにひとびとはかならず警戒心をたかめなければならない。「いかなる帝国主義国家も、正真正銘の平等と友好的な協力で一新独立国家に接するとは絶対にあてにしてはならない」と。

モシ

人口一三、〇〇〇余りのモシは前述のアフリカ最高峰、海抜一万九〇〇〇余フィートもあるキリマンジャロ山の麓にある町で、さいきん、第三回アジア・アフリカ諸国人民連帯会議を開いたために、その名は一躍世界中に知れわたった。わたしたちは会議前後の約二週間にわたつて現地を訪問した。

その第一印象は、この都市は小さいながらもかなり整然としており、万年雪につつまれてキラキラときらめくキリマンジャロ山と対照的に映っていることである。第二の印象は、こっちでのヨーロッパ人の占める人口比率が、わたしたちの行ったタンガニーカの他の都市よりも高いということである。他の町村でわたしたちが、見た小売商はほとんど全部といってもよいほどインド商人によって経営されているのに反して、ここでは、ほとんどヨーロッパ人によって経営されている。二日もたつと、わたしは、この都市がドイツ人やイギリス人の遊覧と避暑のために建設されたのだと分った。ついでに、わたしを驚ろかした印象の第三は、町で売られているスエーデン製のマッチの値段は一箱二〇パンスも要るのに、同じ値段でバナナが、二十本も買えるということである。きくところによれば、バナナはこちらの農民の主食になっているそうである。

モシ附近の農民は牧畜業にはげむ一方、バナナ、コーヒー、綿花をも栽培している。こちらの農民達はすでに協同組合に加入している。この組合は原住民たちが組織したもので、輸出用経済作物の買付けをその主要な業務としている。。モシにあるコーヒー協同組合連合本部（かなり見映えのするビルディングをもっている）の一責任者は、わたしたちに『一九五〇年にはじめて現地の農民は、仲買人、そのうちでも主としてインド人の極端な中間搾取に反対するため、自発的に協同組合を組織したが、いまでは、政府の支持のもとで、すでに全国にわたって組織された。協同組合が組織さ

れるまでは、農民は六〇パーセント以上も中間搾取で捲きあげられた。ところが、組合ができてからは、必要な手数料とその他の経費をさしひかれても、なお販売価格の八〇%ほどをまるまる手に入れることができるようになった。一一二ポンド入り粒コーヒーを例にとれば、現在の出荷価格二三二シリング、農民の手に残る分は一九〇シリングにもなる』。わたしはヨーロッパから輸入する精製コーヒー一ポンドの価格がいくらするか調査してみなかったが、しかし協同組合という団体は、広範な農民たちが過去に受けた残酷な搾取を軽減する意味では、明らかに積極的な作用があるといえる。

きくところによれば、全タンガニーカには、目下のところ、前述のような性格をもつ協同組合はもうすでに、四〇万の組合員をもっており、この他に八〇〇余にのぼる初級協同組合と、連合本部四〇ヵ所が組織されている。一九六二年、政府の提唱のもとに、全国協同組合連合本部が成立した。協同組合の主要経営品目は、コーヒーと綿花である。しかし、全国の農産物のうちで、生産高の最も多いのはサイザル麻であり、全世界の生産高の五分の二を占めており、コーヒーと綿花の生産高を合せても、なおそれには及ばないほどである、だが、サイザル麻の栽培は大部分がイギリス資本の経営する農園に独占されている。同時に、コーヒーと棉花の取引は現在もなほ大部分が外国商人の手に握られている。

わたしたちが、ある日、キリマンジャロ山峰の丘陵地帯に住むチャガ部族の農家を訪ねた。そのとき六十の坂をこえたある老人は、ドイツ帝国主義者がこの地を統治してからの様子を婉曲ながらも水が流れるようにつぎからつぎへと話してくれた。この地に住む人にちは、あるときはそちらへ、あるときは、こちらへと絶えず移動して草葺小屋に二、三所帯がいっしょに住んでいる。土地の多くは荒れるがままに放置され、そのうえ労力に欠け、農業技術も低いだけに各世帯はせいぜい二、三エーカーばかりの土地を耕作しているにすぎない。四十年ほど前からやっと経済農作物の栽培を手はじめた。自家食用の作物の栽培をのぞいて、毎年各所帯とも粒コーヒーを二〇〇ポンドから三〇〇ポンドばかり収穫があり、一年に各世帯平均、英貨二〇ポンドから三〇ポンドの現金収入がある。これは十年前の事情に比べればおおいに改善されたわけである。当時は、住民の収入も少く、また経済農作物作付けの積極性にもかけていた。独立ご、政府は「自力更生」計画を呼びかけ、集団の力で丘陵地帯に道路を舗装したり、生活条件の改善に小型レンガ工場などを建てた。

新独立国家のこのような都市と農村の差別、人民の生活条件、民族経済の発展途上の困難などといった歴史的、社会的条件に原因する根本問題については、中国人のひとりとして容易に理解することができる。いまタンガニーカ人民は立ちあがったのである。

かれらの苦しい労働と根強い闘争力は、当然の成果をかちとることができよう。

御気嫌よう！　ダルエスサラーム

わたしたちのタンガニーカにおける旅程は、ダルエスサラームに始まって、この地で終った。ここはインド洋沿いの海岸に建てられた首都であり、人口は一二万八〇〇〇人ほどある。東手に見えるインド洋は、見渡すかぎり果てしがない。港湾施設がなく、市内はいたるところで海風の吹きすさぶ音と白浪のうちかえす音を耳にすることができる。イギリス植民地当局が使用していたビルディングや植民地高級官吏の別荘は大部分が海岸沿いに建てられている。その中には、むかしの英国総督府があり、いまでは、すでにタンガニーカ共和国の大統領府に衣がえしている。

わたしたちが、ここを立去る数日前の十二月九日、ジュリアス・ニューレイリー博士の大統領就任式とその他の祝賀行事が挙行されたが、わたくしたちもその儀式と祝典に参加を許された、その翌日、大統領は議会で施政演説を行なった。かれの演説について、わたしはいまでもつぎのような諸点をハッキリ記憶している。

『タンガニーカは植民地主義のあとをひきついだばかりであるだけに、まだまだ植民地主義時代の不正、人種の差別をぬぐいさっていない国家のひとつであり植民地主義からくる頽廃と罪悪は追放されなければならない。』

『政府は三ヵ年発展計画をたてるにあたって、農業を最も重要な地位におくことにきめた。われわれが古い耕作方法と生産様式を革新しないで、農業に力を集中するのは無意義である。』

『正しく国家を建設するということは、わたしたちの民族自身の品格をきずきあげることでもある。わたしたちは、この事業に全心全れいを打ちこまなければならない。わたくしたちは、タンガニーカ人民と全世界の人民との友宜と協力の雰囲気の中で生きていく心構えを樹立しなければならないのである』と。

わたしたちは、タンガニーカ人民を祝福する願いを胸にひめてダルエスサラームを離れた。わたしたちは、また真の平等と友好的な協力の精神にもとずいて中国とタンガニーカ両国の文化協力協定に調印したあとの満ちたりた気持ちでダルエスサラームを離れた。わたくしたちは、タンガニーカ政府の友好的で懇切な歓待に感謝しながらダルエスサラームに別れを告げた。左様なら―ダルエスサラーム。

世界めぐり

ラオス
米国の露骨な干渉

ラオスの情勢はますます悪化しつつある。ケネディ政府は現地の手先どもをつかってラオスを再び全面的内戦に引きずり込もうとしている。一方では、もしこの醜い陰謀が失敗したときには、事実上ジュネーブ協定をふみにじってでも軍事的冒険に乗りだそうとやっきになっている。

ラオスではスパナ・プーマ殿下とスファヌボン殿下とのあいだに四月十四日停戦協定が結ばれたにもかかわらず、サバナケット一味は中立派内部の反動分子と結託し、ジャール平原のネオ・ラオ・ハクサット部隊とドン大佐のひきいる進歩的な中立派部隊にたいし、ひきつづき攻撃を加えている。アメリカ将校に指揮されたサバナケット部隊はシャンコーン州とビエンチャン州北部のバン・ビエン地区にも大攻勢を展開した。その他の地方でも解放地区にたいする襲撃は日に日にはげしくなってきている。これらの各戦線では侵入軍はいつもアメリカ空軍の援助を受け、解放地区後方のサバナケット集団にも武器弾薬が空から投下されている。

ワシントンからの示唆によってラオス国境周辺でアメリカ軍とラオス反動派はあきらかに軍事的協同行動をとっている。南ベトナムとタイ国の軍隊もまたジュネーブ協定をふみにじり、ラオス領土内に侵入し、サバナケット州内の解放地区にたいし「掃蕩戦」を行っている。これらの部隊はアメリカ将校によって指揮されている。タイの軍隊と国境警察はタイ・ラオス国境の全線にわたって配置され、いつでも出動できるよう待機している。

これらの公然たる干渉と並行して東南アジア機構は四月二十二日南中国海で「海蛇」と称する海軍演習を行った。フイリピンでも蔣介石、南朝鮮、タイの空軍の参加のもとにアメリカ空軍の演習がおこなわれた。

一方アメリカ本国では御用新聞が実力の表示と軍事的干渉をやっきになって書きたてている。ケネディはラオス情勢を討議するため、アメリカ最高政策制定機関である国家保障会議委員会をわずか三日間のうちに二回にもわたって召集し、またラオスにたいする干渉問題を密議するため、ハリマン国務次官をロンドン、パリーに派遣した。一方ラスク国務長官はラオス国際監視委員会を悪用するため、その委員会の構成国であるインド、カナダ、ポーランドの特使にも会見した。ボール国務次官はおどかしのコトバを使って「アメリカはおそらくラオスへ軍隊を派遣する可能性からは除外されないだろう」と脅迫している。

侵略者どもはついに牙をむきだした。かれらはまたもや東南アジアで新しい軍事トバクに熱中しているのである。

ベネズエラ
失われた米国の楽園

石油の豊富な国、ベネズエラはかってロックフェラー家のパラダイスとよばれたものであり、ヤンキーたちはそこでコカ・コーラよりも安い値段で石油を買いとっていたが、いまのところ、これら吸血鬼たちはゆううつな日々を送っている。民族解放軍という名で知られているゲリラ軍は、アメリカとベタンコオルト政府の気狂いじみた武力弾圧にもかかわらず、その武装力は日一日と大きく生長している。

この事実を物語る最近の一例としてファルコ州戦役での政府軍の失敗を挙げることができる。数個月の準備のあと約八〇〇名の反動軍と軍事顧問のアメリカ人将校はコロ山にあるゲリラ軍の基地に鉗子戦術の攻撃を加えた。かれらは愛国者たちにたいする大衆の支持と補給をたちきるため、農民たちにたいして無差別爆撃と白色テロをおこなった。だが、攻撃はやはり失敗に帰した。

この間にゲリラ軍は敵に反撃を加えた。四月七日、クリール石油会社（US・スタンダード石油会社の子会社）の送油管は爆弾で爆破されたが、これは一カ月にも足らない間の第三回のできごとであった。民族解放軍は首都で政府軍にたいし一連の攻撃をくわえた。アメリカ大使館付陸軍武官の家も一回襲撃され、アメリカ大使スチュアートは「もしアメリカがひきつづきベネズエラの内政に干渉するならば、解放軍はかならず報復するであろう」との警告をうけた。

ゲリラの活動についてブラジルの「リガ」誌はつぎのようにのべている。「ベタンコート政府はこわれ易い軍事機械にたよっているにすぎず、全く人民から遊離している。武装闘争はベネズエラ人民のゆくべき道であり、かれらのとらなければならない唯一の道でもある」と。ベネズエラ人民はすでに第二回ハバナ宣言のつぎの言葉が真理であることを証明した。「人民の行くべき道の閉ざされているところ、労働者と農民にたいして鎮圧のはげしいところ、ヤンキーの独占支配の強いところで人々が知るべき最も重要な第一課は、存在もしていないし、また存在もしえない合法的な手段で支配階級を一掃させることができるということは徒労であり、空想的でもあり、妄想でもある。人民を騙すことは正義でもないし、正しくもない、という

ことである。」

ポラリス核潜水艦
人民の許さぬ海底の化物

アメリカの宣伝機関はジュピターIRBMミサイルをトルコとイタリアから撤去するというワシントンの決定をいましきりに美辞麗句をつくしてほめたたえ、これは「国際緊張を緩和するための一コマだ」と叫んでいる。が、実際的には、これは社会主義陣営を北大西洋から地中海と印度洋を通って太平洋に至るまで原子力潜水艦基地で弓形に包囲しようとしているアメリカの全球的原子力戦略の一つの危険な動きにしかすぎない。

ワシントンがジュピター・ミサイルを撤去しようと決定したのは、これがもはやかれらの目的にそぐわないからであった。この撤去はすでにマックナマラ米国国防長官の許可をえており、かれは米議員たちにジュピターは「廃物」で「一発のライフル銃で結構やられるほどもろいしろものだ」と白状している。ジュピターは四月地中海についたポラリス原子力潜水艦によってとりかえられることになったが、この潜水艦はフランス、ギリシア、レバノン、モロッコを訪れたように、トルコとイタリアの港をも訪れることになっている。アメリカ帝国主義は廃物のミサイルを最新式のものと取りかえたばかりでなく、地中海での軍事基地をも増加させた。

人民大衆はこのいわゆる「平和」に愚弄されはしない。一九六一年からポラリス潜水艦を駐屯させられたイギリスでは、このとしの「アルダマストン平和行進」がおこなわれたとき、約八万人がロンドンの主要な街道で「ポラリス、帰れ、帰れ、帰れ」とさけんだ。また西ドイツ、ノルウェー、ギリシアとオーストリアをふくむ他の多くの国ぐにでも原子力兵器反対のデモがおこなわれた。

日本でもワシントンが日本の港を原子力潜水艦の基地にするといったとき、多くの人々が反対運動を展開した。政治団体、民間団体と自然科学者は抗議の声明書を出している。最近アメリカの原子力潜水艦スレッシャー号が大西洋に沈没した事件は、アメリカの軍事基地を持つ国ぐにの市民にたいしてこの侵略的武器が国家の安全をおびやかすばかりでなく、平和時代の危険をもたらすものであることを裏書きしている。アメリカ原子力潜水艦を日本から撤退させようとする一〇〇〇万人の署名運動がいまおこなわれている。

アメリカの軍事援助
大砲の元金がもっと欲しい

「米援」を「援米」といままでも気づいていない人々が少しでもマックナマラアメリカ国防長官の権威ある声明をよく吟味すれば、必ず益するところがあるだろう。今月の初旬、マックナマラは下院外交委員会でアメリカ自身の「安全保障、外交政策と一般福祉」のための軍事援助計画の「配当金」を詳細にわたって説明した。かれはもしいまアメリカドルで飼養している軍

（28頁へ続く）

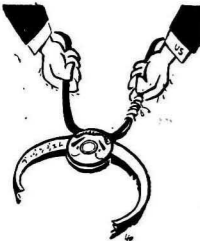
パッシング・ショー

勝手きままな「政治家気質」

ロンドン・タイムスのニューデリー特派員の報道によれば、インド政府のスポークスマンは、インド人民に「緊迫した状態」を持続させる必要から「中国側の再攻撃をまことしやかに吹聴したり否定したりしている」と報じている。もちろんこの特派員は、ニューデリー当局が「絶対に攻撃はありえない」ことを百も承知していることをもあわせ報じている。

これと関連してインドの情報機関は、ネール首相の言葉「……つまりなんらかの政治的意図のために近い将来に『攻撃』の可能性はありえないようだが、それと同時に、別のなんらかの政治的意図により『攻撃』もありうるだろう」と報じている。これにたいし、タイムス紙は「インド国会で今日、人びとの気をいらだたせるようなラチのあかない離れ業をなしとげることは、いまやネール首相にのこされた課題である……」と評している。

ゴ・ジンジエムもうご免だよ

アメリカの戦争屋は、南ベトナムの「特殊戦争」に一日百万ドルもつぎこんでいる。だが、その結果は逆でかえってアメ公とその傀儡を追い出す大衆運動を力強くもりあげる役目しかはたせなかったのを苦にして、ゴ・ジンジエムを手先に使って魅力あるアッピールを『えさ』に愛国遊撃隊が「政府側に寝がえるよう」たくらんだ。ゴ・ジンジエムは愛国的な遊撃隊に「寛大な処置をとる、家族と再び一家団らんさせる、経済的援助をする、また公職につかせる」などといわゆる「口をあけた武器」戦術と呼ばれる手口で呼びかけたが、一向に反響はなかった。

口をあけた武器

上海近郊の水利電化事業の発展

王　華　方

電力とディーゼル灌漑排水の網は、上海近郊十県の耕地を水害と旱ばつからまもっている。それは集団化農業の高度に発達した産物である。農村人民公社の灌漑排水機構は、かなり大きな洪水ときびしい旱ばつに首尾よく打ち勝つことが出来たのである。昨年九月、台風がここ一帯の五十万ムー（一ムーは日本の六・七二畝）の農地を水浸しにしたとき、灌漑排水機構は、大いに活躍した。これまでは災害はさけられなかったが、このたびは比較的よい成果をあげた。

中国の主要な工業都市上海は、揚子江河口のデルタ地帯の南岸にひらけた平坦な沖積層の平野に横たわっている。高圧線の鉄塔の列が上海の発電所から郊外の各農村に向って四方八方に立ちならび、上海近郊の農村人民公社の企業に原動力と、照明用の電力を送っている。これら高圧線の末端は、網の目のようにはりめぐらされた運河、用水路の要地要地にたっし、そこには灌漑排水設備が水田の灌漑排水に活躍している。こんにち、上海近郊農村の灌漑排水網には総設備能力七万馬力の動力灌漑排水機械がとりつけられ、附近一帯の耕地の七〇パーセントにあたる三五〇万ムーを旱ばつと水害からまもっている。

解放前の古い上海附近の農村を知る人びとにとっては、この変化は驚くべきものであろう。当時、農村で電気と名のつくものはほんのまれにしか見られない電話線くらいにすぎなかった。雨季にでもなると、河川、湖などの水が田畑に浸水し、足踏み水車、風車、畜力水車などが総動員され、必死になって排水に奮闘努力したものである。これとは逆に乾燥季には時代遅れの貧弱な器具で同じように灌漑に努力奮闘したものである。時代遅れの技術をもち、貪慾な帝国主義者、資本家、地主の剝奪と反動政府の支配で零細化し、貧困化した小作農たちは悪天候のギセイ者となり、かれらの田畑は週期的な水害と旱ばつにさらされ、自然の猛威にうちまかされて、ある者は土地を棄てて難民となった。凶作、貧困悲惨な運命が農民につきまとっていたのである。

三段階の発展

上海近郊に新しい社会主義農村を形成するにあたっては、近代的な灌漑排水網の建設ということが、決定的な技術的要素になっている。この灌漑施設の発展は大体三つの段階を経て遂行された。それは解放直後の経済復興期、農業協同組合化の開始と高潮期、人民公社の時期という三つの段階である。

第一段階

一九四九年いらい、農民の政治的地位と社会的地位は、急速に向上し、経済事情も大いに改善された。中国では一般にこの状況を「農民は解放され、立ちあがった」ということばであらわされている。かれらは共産党と人民政府の指導のもとで耕地の保護と灌漑排水のために、堤防、ダム、水門および水路を修築するという大規模な工事を興した。土地改革と互助組の成立はこの運動に拍車をかけ、かれらはある程度の機械設備を手に入れ、その据え付けもできるようになった。ところが、その発展の速度は全体からみるとはやくはなかった。一九五三年の上海近郊の農村では、一四〇〇ムー（一ムーは日本の六・七二畝）の農地を灌漑するに足る内燃機関動力ポンプをしかもっていなかった。しかもこれら大多数のポンプの所有者はほとんど富農であったのである。

第二段階

第二段階での灌漑排水網の建設は、一九五四年農業協同組合化の成立とそのめざましい発展とともに開始された。一九五四年から一九五七年にかけて、上海近郊の農村では、動力ポンプ（ディーゼルと電力）の灌漑排水能力は一一、〇〇〇馬力以上も増え、その灌漑排水耕地面積は約五万ムー（一ムーは日本の六・七二畝）にまで拡大した。

近代化の鍵は協同化

上海の共産党地区委員会と人民政府の指導者たちは、この情勢をありのままに検討して、上海近郊農村の農業近代化のカギは電力灌漑排水機構の建設にあるとみなした。灌漑と排水は、上海近郊と上海デルタ地帯の主要な農作物である水稲の生長にとって不可欠なものであるばかりでなく、すべての農作物にとっても非常に重要である。このことは反動政府の支配下では、ごく僅かの農民にしかできないことだった。共産党と人民政府の指導のもとに、計画的に農民の土地、労働力とその他の資源を協同化することによってはじめてこの方面での大発展がなしとげられた。

第三段階

一九五八年に入ると、農村人民公社が成立した。このとき灌漑排水機構の建設は第三の目ざましい段階に入った。もとの協同組合を合併してできあがった人民公社は多くの人力、物力、財力をもつ大きな組織体として、従来の協同組合ではできなかった大規模の技術的改善を統一した計画のもとでおこなうことができるようになった。

上海近郊の農村人民公社もまた中国の他の地と同じように技術改革（農村の機械化と電気化、水利設備の増設、化学肥料と他の農薬の普及）を促進する近代化の過程に入った。上海近郊農村にとってこの技術改革での特筆すべき措置の一つは水利施設機構（灌漑排水路、水門、堤防など）とポンプ設備能力の拡充にある。ここ五年らい、上海近郊農村のポンプ設備能力は六万馬力近くも増加し、総設備能力は七万馬力にたっし、耕地面積五〇万ムー（一ムーは日本の六・七二畝）の需要を満たした。こうした現有設備の五分の四は人民公社が据えつけたのである。

一九五八年いらい、地方政府は上海の送電配電系統から利用し得る大電源をもちいて電力ポンプの据えつけを優先的におこなった。これらのポンプはいま、ポンプ網の主要な部分になっている。いま、上海とその附近の工業中心地の発電所から近郊の農村地帯に向かって高圧線が四方八方にひろがっている。

灌漑排水機構の設置は、ち密な計画のもとに、急速に完成された。いかなる地区でもポンプを据えつける前にち密な調査と現場実験を行った。あらゆる地区に同じような設備を同時に配置することができないので、まず水田地域に優先的に配置し、つぎに菜園、最後に他の農作物地区という順序をとった。

農村の需要にこたえる工業の発展

上海の工業はみごとにこの難局をのりきった。こんにち近郊農村に架設された高圧線は延べ八、〇〇〇キロメートルにもたっしている。内燃機関とモーター五〇〇〇余台、変圧器、多数の電気メーターと他の電気設備をもっている。一九五七年以前は上海近郊の農村で使用されていた灌漑排水設備たとえばポンプ、内燃機関、モーターなどはいずれも輸入品であった。中国の第二次五ヵ年計画（一九五八年—一九六二年）の期間にはじめて上海の動力製造部門が大発展をとげ、近郊十県と全国各地に総設備能力六〇万馬力の動力機械を送り込んだ。そのご上海農村に据えつけた動力やポンプはすべて「中国製」のものとなった。

一九五七年に第一次五ヵ年計画が完成する以前は、上海の発電所の電力は日ましに増える工業用電、照明と家庭用電の需要を満たすのに精いっぱいで、農村にまで電気を供給する余裕はなかった。その翌年（一九五八年）国民経済の大躍進がおこり、市の機械工業ははじめて大型発電機を生産し出した。動力工業はその大型の新発電機を増設して発電能力を増した。上海の西にある望亭火力発電所の稼動力は上海を中心とする揚子江デルタ地帯の電力送電系統の配電余力を大幅に増やした。人民公社も充分な電力供給をうけ、また電気料金も五年の間に二〇パーセント近くもさがった。

上海近郊農村の人民公社の九〇パーセントはこの増加した電力を灌漑排水に使用するほか、精米、飼料加工各種農業機械の運転、通信その他公共建築物や民家の照明にもつかっている。一九六二年度だけでも、電力消費量は一二パーセント増えた。電力消費量は人民公社設立前の一九五七年の四六倍になった。上海近郊農村の灌漑排水機構はいく度もその優越性を発揮した。昨年九月の暴風雨のとき上述のように、五〇万ムーの農地が台風のために水浸しになり、そのうち、三〇万ムーの農地は膝がしらまでの深さに浸水した。だが幸いにも農民はすぐさまポンプ網を利用したので、二番作の水稲は救われ、比較的よい収穫をあげた。

南匯県の農民はいまでも、十年前にあった五〇日つづきの日照りを思い出す。農民たちは死物狂いになって災害とたたかったが水稲は全部減収となった。その南匯県はいま動力ポンプの設置では、先頭をきっている県の一つである。昨年の夏、七〇日も日照りがつづいたが、ポン

プが威力を発揮し、全耕地に灌漑して健気にも作物を救った。

労力の節約

機械動力による灌漑は人力灌漑というきつい労働から多くの人手を解放した。人民公社は節約した労働力を他の畑仕事に振りむけることができた。松江県山陽人民公社の計算によれば、近代的ポンプを使う一人の農民は足踏水車をつかう場合の十倍の耕地面積を灌漑または排水することができる。

県の幹部がつぎのことを話してくれた。一九五三年のことであるが、いま公社になっている区域で五〇日も日照りがつづき、八〇パーセントの労働を抗旱に投入したため、中耕、除草ができなかったので稲作は減収となった。一九六一年には同じ地域で六〇日の日照りがつづいたが状況はまったく変わっていた。公社はほんの一部の人を抗旱にふりむけただけで、平常の畑仕事はいつもの通りつづけられた。灌漑排水機構の利用その他農業技術改革のおかげで、単位面積あたりの収穫高は一九五三年の二倍になった。

ここ二、三年らい、上海の天候は決して順調ではなく、むしろ悪かった。農民は水害、旱ばつとたたかわなければならなかった。しかしながら、技術改革にそった処置、ことにポンプ網へ発展する方面をとってきたので被害の悪影響を最少限度にくいとめ、農民の家庭生活も日ましに向上している。

人民公社の社員はここ何年らい、新技術の導入の効果をまのあたりにみてきた。村に電灯がつき、有線中継放送とラジオがかれらの精神生活を豊かにした。食糧、野菜、経済用農作物が増産し、労働が軽くなり、収入が増加した。これらすべてが人民公社への農民の確信をつよめ、かれらは農村の技術改革の強い支持者となった。これはまた人民公社の集団経済を固める重要な要素でもある。

もちろん、上海近郊の農村には一定の特殊性はあるにしても、そこでの経験は農業の近代化を進める他の地区に貴い先例を提供した。動力ポンプ網は農業の技術近代化を促進する出発点を意味する。事実はそれが農業生産の増産、人民の生活向上をうながす道であることを立証しているのである。

（25頁より）

隊をアメリカ軍に切りかえるならば、それは「われわれの人力と財力の耐えがたい大損失をひきおこすであろう。それは国防予算をふくらませ、納税者の負担を増させ、そして最小の人的、金銭的支出でわれわれの前線戦略を遂行し得る軍事援助額を幾倍も上廻るものとなろう」と語った。

この自己本位の原則にもとづいて、御自慢の「米援」がばらまかれている。だからケネディ政府は一九六三—一九六四年度会計年度予算の軍事援助費一四億米ドルの六〇パーセントを中国、その他の社会主義国家に隣接している地域と国ぐにに分配した。これらの中には悪名高い南ベトナムのゴ・ジンジエム、タイ国のサリ、台湾の蔣介石、南朝鮮の朴正熙などがふくまれている。インド・タイムスの報道によれば、ネール政府はアメリカのいっさいの「テスト」を経てそのもっとも新しい手先となった。頑迷な反共国である印度は企業の国有化に際して莫大な補償金を旧経営主に支払い、国内での課税高も最高記録に達している。ドルを最も巧みに使いこなしている。同紙の最後の言葉は明らかにニュー・デリーがぼう大な軍隊をきづきあげていることを暗示している。

マドリードの殺人事件
血に染まるフランコの手

スペイン共産党中央委員ジュリアン・グライマオ氏は最近フランコの手で殺された。かれは一九六二年十一月七日に逮捕され、四月十八日に死刑の宣告を受けたのである。

ファシスト独裁者のこの罪は全世界の抗議をまきおこしている。グライマオ氏の死が伝えられた数時間後、ロンドン市民は豪雨の中でデモを行い、その参加者には、スペイン内戦の時の元国際義勇兵、貿易業者、学生およびスペイン共和党員たちが入っている。

このほか、マンチュスタ、リバプール、バーミンガムなど各地でも抗議デモが行われている。

イタリアの労働者数千人はローマのフランコ大使館に抗議デモを行い、リオン、ブラッセル、ストックホルム、チューリヒ、モンテビデオその他の欧洲、中南米の各都市でもデモが行われた。

アルジェでも抗議集会が開かれ、集会後、参加者たちは市内の目抜き通りをねりあるき、〈フランコ独裁打倒〉を叫んだ。

日本共産党中央委員会はフランコ政権に強硬な抗議書を送り、日本人民は「スペイン人民と共に地球上からファッショ政権を一掃する」と書いてあった。

北京では「人民日報」の時事解説員が四月二十三日の解説欄で、虐殺者の屠刀は、フランコが政権を獲得していらい絶えることのなかったファシスト政権にたいする闘争をおし進めているスペイン人民の前進をさまたげることはできない。昨年十万の労働者のストライキにまで高まった全スペインの反フランコ運動はスペイン人民がこの暗黒支配をなくそうとする断固とした決意を示すものと報じられている。

文芸

詩歌

さかんになった詩の朗読会

北京ではもう歌劇や芝居、映画のキップを買う人たちの長い行列は珍らしくなくなったが、このごろではもうひとつ別の長い行列がみられるようになった。一般市民にはじめて売り出されるようになった詩の朗読会のキップを買う人たちの長い行列である。

先日北京児童劇場でおこなわれた詩の朗読会のキップは一時間のうちにたちまち売り切れた。キップの買えない人もおおぜいいたが、なかにはキップを返しにくる人にのぞみをかけてなかなかその場を立ち去らない人もあった。またこんなこともある。ある劇場で詩の朗読会がおこなわれた。キップを手に入れることのできなかった人びとは劇場にはいれなかったが、劇場の近くに来て停った放送局の録音カーのまわりに集まった。そして録音カーに乗っていた技術者の好意で、二時間ほど劇場のなかでつぎつぎに朗読される詩の録音をきかせてもらった。人民公社をうたった詩からキューバをうたった詩にいたるまでいろいろなテーマの詩の朗読に人びとは熱心に耳をかたむけた。劇場では、時間を気にした司会者が何回も聴衆の熱烈なアンコールの拍手を制止したくらい場内はわきたった。

詩の朗読会は北京だけでなく、どこの大都市でもさかんになり、文化館、青少年の文化宮、学校、工場、図書館、放送局などでよく催されている。北京ではさいきんできた朗読グループのなかに、朱琳、王曉棠、王心剛など有名な新劇や映画の男女優からなる朗読グループがあって、その朗読会はいつもひじょうな人気をよんでいる。このほかに四十人の少年先鋒隊員からなる朗読グループもできている。

朗読会にあつまる聴衆は労働者、国家幹部、学生、生徒、兵士など範囲がひろく、ときには小学生まできている。

詩の朗読といったような形式のものがさいきんにわかに活潑になった原因はどこにあるか？

中国では解放後はじめて文学芸術に接したものが多いが、近ごろはすぐれた文学芸術作品にたいする人びとの欲求もますます高まり、たとえば「紅岩」のようなすぐれた小説は何百万部も売れている。詩——といってもふつうの詩ではなく、革命の詩であり、また、いまの時代と密切な関係をもつ闘争の詩であるが、そうした詩の朗読が多くの人をひきつける理由もこういうところにあるといえよう。

抗日戦争の始ったころからすでに愛国詩人たちは詩の朗読を通じて敵にたいする人民の闘争を鼓舞してきた。当時の敵は日本侵略者と国民党反動派だった。解放前の暗黒な時期にも愛国詩人たちは国民党占領地区であくまでこの伝統をまもった。たとえば昆明ではこんなことがあった。ある曇った日のことである。色褪せた長衣を着た聞一多教授（注）は西南聯合大学の大講堂の演壇に立った。大講堂は人でいっぱいだった。教授はポケットから自作の詩の原稿を取り出し、近視眼鏡のすぐそばまでその紙を近ずけながら、感激にふるえる声で詩の朗読をはじめた……。今日の詩人たちの作品も人びとのおなじような要求をみたして、行動への、そしてそれぞれの仕事への新たな努力にたいする戦闘的な、革命的な呼びかけとしての役割をはたしている。

いまここには平凡で偉大な兵士の雷鋒をうたった詩、革命的なラテンアメリカをうたった詩、アルジエリアその他をうたった感動的な詩、それから労働者、農民、兵士の中にはいって創作意欲を充実させている詩人たちの手になる無数の詩があるが、そうした詩が朗読されるとき、聴く人の眼は、全精神を集中してかがやくのが常である。

詩の朗読のもつもうひとつの力としては、そのバラエティにとむ技があげられよう。いぜんは聴く人に不愉快な感じをあたえる大げさな調子やジェスチュアがあって、それが共通の欠点だった。だが今日では朗読者たちはもっとやわらかい、そして自然な態度や手法を身につけているし、詩の意味をよくつかんでこまかいニュアンスまでもつたえられるようになっている。

近ごろはまた朗読の形式にも新しいところみがみられる。例えば、一つの詩を一人もしくは二人以上で朗読するとか、グループで朗読するとか朗読に音楽やあるいは適当なゼスチュアをまじえるなどである。詩のほか

詩歌
記録映画
美術工芸

に、小説や寓話、芝居の本や映画のシナリオなどの朗読もよい効果をおさめている。キューバのカストロ首相の演説「歴史はわたしの無罪を宣告するだろう」は数ある朗読プログラムのなかでも呼び物のひとつになっている。以上にみられるように、詩の朗読はいまや新しいより高い水準に達している。だが詩人とその同業者たちは自分たちの芸術をさらにひろく広場へ、街頭へ、人民公社の畑へまでもってゆくためにいっそうの努力をはらっている。

（注）西南聯合大学教授の聞一多はすぐれた詩人であり、著名な民主主義の闘士だったが、一九四六年国民党反動派によって暗殺された。

記録映画

レンズにおさまった中印辺境の真相

中国、インド辺境をたずねた北京のカメラマン一行は現地でみたままの光景をフィルムにおさめて帰ってきた。これから上映される記録映画ー「中国・インドの辺境問題を平和的に解決するために」ーはすべての平和愛好者にとって興味深いものとなろう。

最初の画面にでてくるのは辺境駐在の中国国境守備隊である。大挙越境してきたインド軍の攻撃を、一九六二年十月二十日、自己防衛のために撃退したその地点で、いまこの守備隊は、本国政府から一方的停戦と撤退命令を受けとったところである。防禦陣地から撤退する場面や、撤退前に原住民のため橋や道路や灌漑用水路や家屋をつくったり修理したりしている場面がみられる。つづいてカメラは中国国境守備隊と原住民の惜別のシーンにうつり、地元のチベット族の老人が去ってゆく中国国境守備隊にお別れの祝酒をすすめたり、「ハダ」をとりかわして敬意を表したりしている。また、チベット族の歌手が十二名道のわきに立って名残りを惜しむ別れの歌をうたっている。

つぎには中国国境守備隊の捕虜となったインド兵収容所にカメラがむけられる。捕虜たちはもと着ていたうすい軍服のかわりに中国製の棉入れの服を着て、毛皮の帽子をかぶってにこにこしている。インドの炊事係将校が肉をぶった切ってインド式の「プリ」をつくっている。インド兵がうれしそうな顔でタバコその他の配給品を肩にかついではこんでいる。インド第七歩兵旅団司令官のダルビ准将はじめインド軍の将校や兵士が宗教上の礼拝をしたり、ボールあそびをしたり、歌やダンスに興じたり、家族にあてて長いたよりをかいたりしている。

最後は捕虜となつたインドの傷病兵や鹵獲された武器、弾薬、軍需品をインド側へ返還する場面である。回復にむかっているインドの傷病兵たちはいままで世話になった中国側の医師や看護員とかたい握手をかわしたり、つよく抱きしめたり、別れをおしみながらインド側の赤十字救急車にのってゆく。広場の方には中国国境守備隊がインド政府から派遣されてきた文官たちに米国製、英国製のマーク入りのタンク、飛行機、軍用トラック、その他の鹵獲品を返すまえにその兵器を見違えるほどきれいに修理し、整備するのに忙しくたちまわっている。インド側の要求によって、中国国境守備兵はジープに乗りこみ、エンジンをかけてモーターの好調をしめしている場面である。

カメラにとらえられたこれらの忘れられがたいそれぞれのシーンは、中国とインド人民相互の利益のため、両国の国境問題を平和的に解決しようとする中国政府と中国人民の誠意の記録として内外に紹介されよう。

美術工芸

樹皮で描かれた山水画

あたらしい手工芸の一つが四年まえ、山東省の美しい沿岸都市である青島に誕生した。

手工芸人のト裕民さんはある日、奥さんが火をおこしているのを眺めながら薪の樹皮の美しい模様に心を打たれた。かれはそれが高山の嶺や海の広々とした波の形に似ているのに気がついたのである。二日のち、かれははじめて樹皮を材料にした山水画を画きあげ、仕事場の同僚たちから賛賞を博した。

樹皮絵を画く材料と道具はハサミ、ピンセット、ナイフ、ピン、ニカワ、ニスとえのぐだけで、かれは伝統的な中国画の風格にもとづいて数多くの樹皮の山水画、花鳥画をつぎづきと作成した。〈青島のうみべ〉、〈鶴と松〉、〈孔雀の羽根びら〉などはかれの大型作品で、みな壁にかけられるように作成されたものである。

製作中のト裕民画伯

かれは自分の絵に自然界のもつ新鮮さ、美麗さと素朴さをそえるため、できるだけ人工的な方法をさけて、樹皮の自然なたちとキメといろあいをそのままにのこそうとこころみた。

北京、南京、上海などの各地からきた中国画の有名な画伯たちはそれらの作品を鑑賞して心をうたれ、一致して樹皮絵は将来に大きな発展の可能性のある新しい手工芸術である、と認めた。

ト裕民さんはもう五十歳ではあるが、いまから三十年ばかりまえに印形をほったり、桃のたねに彫刻をほどこしたりする手工芸師匠の門下に弟子入りした。新中国になってからの十二年間、かれは情熱をかたむけて蒔絵などの新しい手工芸を手始めたが、樹皮絵の創作に新しい成功をおさめてからは、この分野で大いに働こうと決意して若い弟子たちをひきとっている。トさんはいま青島美術手工芸研究所につとめており、その研究員でもある。かれはまた、全中国芸術連合会青島地方支部および青島政治協商会議の委員をもかねている。

ト裕民画伯の製作した樹皮画

スポーツ

重量挙げの世界記録

中国の陳鏡開選手は四月二十日の北京競技会で一五一キロを挙げ、フェザー級・ジャーク世界記録を破った。この記録は日本の三宅選手が四月十一日に樹立した世界記録よりも〇・五キロ上廻わっている。二十七歳の陳鏡開選手が一九五六年六月バンタム級一三三キロの世界ジャーク記録を樹立していらい第八回目の重量挙世界新記録である。

アーチェリー 中国の優秀なアーチェリー選手は最近のトーナメントで六つの世界記録を破った。

女子の方では、人民解放軍の李淑蘭選手が五つの世界記録を破った。距離五〇メートル連続二回射ちに五五三点、距離三〇メートル一回射ちに三二七点、距離三〇メートル連続二回射ちに六五〇点、四種目の一回射ちに総合点一一四八点、連続二回射ちに総合点二二六九の成績をあげた。

人民解放軍のもう一人のアーチェリー選手徐開財は男子の方で、距離五〇メートル一回射ちに三〇二点を挙げて世界記録の二九九点を破った。徐選手はずっと前に男子距離七〇メートル連続二回射ちに五八五点の世界記録を樹立している。

短篇ニュース

メキシコ文化団体 新中国を訪問

陸定一副総理は、四月十五日メキシコのシナロテス大学学長ゴロスディザ博士を団長とするメキシコ教育アカデミー第四回文化交流観光団に接見した。

劉主席がシリア アラブに祝電

劉少奇主席は先週シリア・アラブ共和国の国家革命記念日を祝して同国革命司令兼国民議会議長ラアイ・アタシ氏に祝電をおくった。四月十七日、シリア中国駐在大使アブラヒイム・コーリ氏はこの記念日の祝賀宴会を催した。

陸定一副総理が 朝鮮代表に接見

陸定一副総理は南朝鮮の人民と青年と学生の武装蜂起三周年記念前夜の四月十九日、朝鮮民主青年団の代表団に接見した。北京の青年と学生団体は同日、これを記念する集会を催した。

中国の新聞記者 ジャカルタに到着

中国新聞記者代表団は四月二十四日ジャカルタで開かれる第四回アジア・アフリカ新聞記者会議に参加するため、ジャカルタに到着した。

中国スポーツ代表団 インドネシアに赴く

中国のスポーツ代表団は、インドネシアが提唱した新興勢力体育競技会予備会議に参加のため四月十九日ジャカルタに到着した。

中米大使級会談開く

第百十五回の中国・アメリカ大使級会談は四月十七日ワルシャワで開かれた。

中捷貿易協定

一九六三年の中国・チェコスロバキア物資交換と支払協定は四月十九日にプラーグで調印された。

中波文化協力協定

中国とポーランド間の一九六三年における文化協力協定の実行計画は四月二十日、北京で調印された。

素晴らしいスタイルの万年筆

詳細は下記の宛先にお問い合せ下さい

中国軽工業品進出口公司

天津支店：中国天津市遼寧路 172 号　　電報略号 “INDUSTRY” 天津